

義務教育学校設置に向けての意識調査報告書

令和6年7月

志木市教育委員会

目 次

1 調査の概要

(1) 調査目的	1
(2) 調査対象者	1
(3) 調査方法	1
(4) 調査項目	1
(5) 調査期間	2
(6) 回収結果	2
(7) 報告書表記上の留意点	2

2 調査結果の概要

(1) 児童生徒	3
(2) 保護者	3
(3) 志木第四小学校の校舎活用方法	4

3 よりよい義務教育学校の設置に向けて

(1) 義務教育学校設置に向けての考え方	5
(2) 小・中学校の垣根を超えるための取組について	6
(3) 教職員の負担軽減策について	6
(4) 一体的な校舎活用の必要性について	6
(5) その他	7

4 調査結果

(1) 調査結果（児童生徒）	8
(2) 調査結果（保護者）	12
(3) 自由記述（抜粋）	17

参考資料

- ・義務教育学校設置に向けての意識調査質問項目【児童生徒用】
- ・小中一貫教育 志木の森学園（児童生徒用のパワーポイント資料）
- ・義務教育学校設置に向けての意識調査質問項目【保護者用】
- ・志木の森学園 次代を担う志木っ子のために（リーフレット）

1 調査の概要

(1) 調査目的

志木第二中学校区（志木第二小学校・志木第四小学校・志木第二中学校）における令和9年度からの義務教育学校の設置に向け、小中一貫教育の効果をより高めるため、直接的な当事者となる児童生徒及び保護者の理解と意識を把握するとともに、さらなる小中一貫教育の推進への資料とするために実施した。

(2) 調査対象者

令和6年5月1日現在の志木第二中学校区内の市立小・中学校に通学する児童生徒及び保護者等

ア 児童生徒（小学4年生～中学3年生）	889人
イ 児童生徒保護者（小学1年生～中学3年生の保護者）	960人
ウ 未就学児の保護者（館・幸町地区0～5歳児の保護者）	355人
計	2,204人

(3) 調査方法

ア 児童生徒	義務教育学校についてのパワーポイントによる学校長からの説明の後に、各児童生徒に貸与しているタブレット端末を用いて回答
イ 児童生徒保護者	全保護者が登録するデジタル配信システム（さくら連絡網）により、義務教育学校についてのリーフレット兼依頼文を添付し、リーフレットのQRコードを読み込み回答
ウ 未就学児の保護者	依頼文及び義務教育学校についてのリーフレットを郵送し、リーフレットのQRコードを読み込み回答

(4) 調査項目

ア 児童生徒

基本事項（3問）

- ① 学校名
- ② 学年
- ③ クラス

質問事項（6問）

- ① 志木第四小学校の活用方法について
- ② わたりろう下設置による一体的な校舎での生活について
- ③ 多くの先生が相談にのり、支援することについて
- ④ 1年生から9年生までがお互いの生活を知ることについて

- ⑤ 小・中学校の違いや変化をなだらかにし、小学校の先生が中学校の学習も支援することについて
- ⑥ これまで以上に多くの仲間とたくさんの経験ができることについて

イ 保護者

基本事項（2問）

- ① 児童生徒の学校（未就学児は、入学予定の学校）
- ② 児童生徒の学年（未就学児は、年齢）

質問事項（8問）

- ① 小中一貫型小学校・中学校と義務教育学校の違いの理解について
- ② 小・中学校の教職員がひとつの学校の組織として、9年間の学びを支援することについて
- ③ 渡り廊下設置による一体的な校舎での生活について
- ④ 多くの先生が相談にのり、支援することについて
- ⑤ 1年生から9年生までがお互いの生活を知ることについて
- ⑥ 小・中学校の違いや変化をなだらかにし、小学校の先生が中学校の学習も支援することについて
- ⑦ 小学生と中学生が交流する学校生活の中で、これまで以上にたくさんの経験が得られることについて
- ⑧ 志木第四小学校の活用方法について

（5）調査期間

令和6年5月30日～6月12日（14日間）
（児童生徒は、5月30日に実施）

（6）回収結果

- ① 児童生徒 775人（回収率87.2%）
- ② 保護者 632人（回収率48.1%）

（7）報告書表記上の留意点

- ・集計表の回答比率は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合があります。
- ・複数回答形式の質問の場合、無回答を含む選択肢の合計と回答者総数とは一致しません。

2 調査結果の概要

(1) 児童生徒

全ての項目において義務教育学校の設置に向けた期待感が高く、各項目の「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択している児童生徒の割合は、ほとんどが8割を超えています。

その理由として、一体的な校舎での生活では、小・中学生が交流する中で学びが深まることや学年・年齢などに関係なくお互いに尊重し合うことに期待する意見が多く挙がっています。

一つの教職員組織による支援や校種を超えた教職員の授業では、小学生の頃お世話になった先生が中学生になってもそばにいることへの安心感や多くの先生の考えに触れたいという思い、先生たちに相談しやすくなるとともに、相談しやすい人が見つかるといった意見がありました。

小・中学生がお互いの生活を知ることでは、小学校の頃、中学校生活が不安だったため、よいことだと思うという自身の経験や今後の見通しのもちやすさがあるという意見が挙がりました。

異学年での合同授業については、多くの学年と意見交流し、自身を高められることや友達が増えること、思いやりなどの気持ちも少しずつ持てるようになると思うという意見などが見られました。

多くの児童生徒がさまざまな面で期待している一方で、まだ経験したことのない義務教育学校の設置に向けて不安などを抱いている児童生徒も一部いました。

(2) 保護者

学校の設置形態の違いについては、理解が進んでおり、「理解できた」「概ね理解できた」を選択している割合が約7割となっています。

一つの教職員組織による支援や一体的な校舎での生活、小・中学校の教職員が9年間関わることに關しては、「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を約6割が選択しています。その理由として教職員の負担による影響や工事費用を懸念する意見が多く、また、渡り廊下がなくても小中一貫教育は実施できるのではないかという意見や発達の段階が違ふことによる影響への心配などが挙がっています。

一方、一体的な校舎で、小・中学生が交流していくことや校種を超えた教職員の授業、異学年での合同授業については、「とてもよいと思う」「よいと思う」を約6割が選択しています。その理由としては、進学不安の解消や自立のきっかけ、系統的な指導、教職員同士の連携のしやすさ、異学年が交流することの教育効果を背景とする期待など、多岐にわたっています。

(3) 志木第四小学校の校舎活用方法

児童生徒、保護者ともに、自習スペースや部活動スペースとして活用していくことを選択する割合が多くなっています。

また、多くの人が交流できるスペースとして多世代交流・異学年交流・学年集会などで活用していくことを選択する意見も多く見られました。

さらに、保護者の方は、不登校児童生徒の支援や子育て支援に関するスペースの選択も多くなっています。

その他の意見としては、児童館や公民館、市民体育館の機能を備えた活用というアイデア、居場所づくりや少子高齢社会に合わせた活用を望む意見のほか、他の自治体の事例を参考にした企業と自治体が連携できるような活用やこれまでどおり学校として活用するという意見など多岐にわたっています。

3 よりよい義務教育学校の設置に向けて

(1) 義務教育学校設置に向けての考え方

いよいよ令和7年度から、本市の小中一貫教育がスタートします。本市が進める小中一貫教育では、市内12校のさらなる発展と義務教育9年間の質の向上を目指しています。

特に、志木第二中学校区では、3校で推進してきた小中一貫教育のこれまでの取組や小・中学校の立地状況などを踏まえ、小中一貫教育の効果をより発揮することができる施設一体型の義務教育学校の令和9年度設置に向けて準備を進めています。これまで別々であった小・中学校の教職員が一つの組織となり、校長の経営方針、リーダーシップのもと、小・中学校の垣根を超えた9年間を一貫した教育を行います。

一つの組織とすることで、これまで小学校で完結していたものを中学校へつなぎ、中学校からスタートさせていたものを小学校から丁寧に引き継ぐことができます。志木第二中学校区では、小学校のよさや中学校のよさを融合する一体的な校舎による義務教育学校だからこそできる小中一貫教育を目指しています。

例えば、中学校の教員が小学校に出向き、乗り入れ指導として部分的に行ってきたことが、自分の学校の子供たちに対する日常的な指導として実施できるようになります。このことにより、教職員の連携や情報共有、前期課程における教科担任制が導入しやすくなります。また、教職員一人一人がもつ専門性を生かすことができるため、子供たちの進学や学習への不安感の解消につながります。さらに、算数や数学などの系統性が特に重要となる教科においても小・中学校の学びがつながり、小中一貫教育の効果をより高めることができます。

児童生徒にとっても幅広い年齢層の交流により、人間性・社会性の育成の効果が期待できます。既に開校している義務教育学校からは、小学生に中学生への憧れの気持ちが育まれることや中学生は小学生の手本になろうとする自覚が育まれるなどの成果を伺っています。

教職員にとっても「小学校と中学校は違う」という子供の成長を点で捉える意識から、児童生徒の発達の段階を「9年間をとおして育む」という意識を持つことで、小・中学校の垣根を超えた学びの過程をイメージする意識改革につながります。県外の義務教育学校として実績のある学校においては、当初「小中で一緒にすることは何か」と考えることから始まり、その後、一緒であることは当たり前、「義務教育9年間でできることは何か」という、形から質へと徐々に教育実践が成長していったことが報告されています。

本市の目指すよりよい義務教育学校の設置に向けて、今回の意識調査結果を活用していきます。皆様の期待に応えていくことはもちろんですが、より小中一貫教育のよさが発揮できる義務教育学校にしていくため、意識調査により把握された、特に不安や疑問に思われている点については、今後、次のように進めてまいりたいと考えております。

（２）小・中学校の垣根を超えるための取組について

不安として挙げられた、小・中学校の生活や文化の違いに関しては、それぞれのよさを生かしていくことが大切であると考えています。そのためには、教職員が９年間の学びの過程を意識した教育を実践していくことが欠かせません。

義務教育学校では、発達の段階が違うことをさまざまな視点から見直す機会を得られます。心身の発達の違いに加えて、学習においては、数字を具体物に置き換えて学ぶことから実体のないものを理解し、イメージする思考へ変化します。このような、子供たちの発達の段階の違いや成長を身をもって実感することで、９年間の学びの中で生じる「段差」と、子供たちは、どのように向き合っているのかを小・中学校の教職員が共有することができます。

志木第二中学校区では、よりよい義務教育学校の設置に向けて、小・中学校の教職員が合同研修などをとおして、子供たち一人一人が必要な「段差」と向き合えるような適切な指導や授業力の幅を広げることができる取組を進めています。

（３）教職員の負担軽減策について

職員の負担に関しては、今回の調査のどの項目でも心配の声が挙がっています。本市では、本市独自の制度であるスマート教員の導入に加え、スクール・サポート・スタッフも導入しています。さらに、令和６年度からは週時程の見直しをはじめ、今後は現在導入している校務支援システムの更新を進めるなど、根本的な解決に向けて取り組んでいます。本市における教職員の負担軽減の目的は、子供たちと向き合う時間を確保することや子供たち一人一人の可能性をよりよく伸ばすための教職員の資質を向上する研修時間を確保することです。

このことから、小中一貫教育をより推進しやすくするために、さらに教職員の負担を軽減することが必要であると考えています。新たな取組を進めるにあたり、一時的に負担が増すことも想定されることから、見直すことが可能な取組についての検証や負担軽減に向けた試行的な取組を進めています。

（４）一体的な校舎活用の必要性について

一体的な校舎に関しては、教職員や児童生徒の安全で効率的な動線を確保するためにも欠かすことができません。本市としては、学校との協議において、教科担任制や生徒指導における情報共有など、小中一貫教育の効果を最大限に発揮できる環境の整備の観点から、一体的な校舎が必要であると判断したものもあります。さらに、国立教育研究政策所の調査研究においても、一体的な校舎における小中一貫教育の取組は、より大きい成果につながるなどが示されています。例えば、学校間の移動や連絡調整のしやすさは、小中一貫教育の総合的な成果と相関関係があることや学校間でのさまざまな交流によって児童生徒の人間関係の固定化が解消に向かいやすいことなどが示されています。

これらのことも考慮し、環境を整えることは小中一貫の成果を高めるうえで、大変重要な要素であると考えています。

(5) その他

1 学級の人数や教職員数などへの不安が見られました。この点に関しては、法令や県の基準に則ることから、1 学級の人数規模は現在と同様になります。教職員数については、現在、学級減にともなう数名減を見込んでいますが、今後、県に加配教員のほか、本市独自の市費教員を複数名配置することで、法令や県の基準を上回る教職員を配置していきます。加えて、義務教育学校を一体的かつ効果的にマネジメントするための教職員組織を構築します。

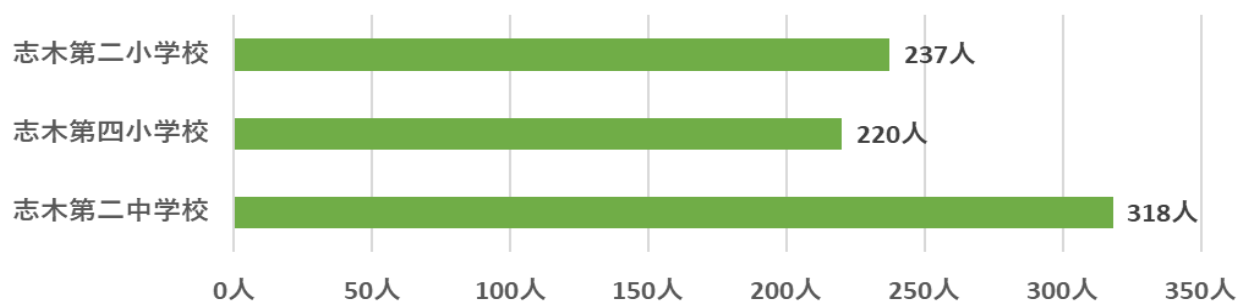
多くの情報に溢れた社会の中で、児童生徒や保護者の不安感も伺えたことから、本市として改めて、正確な情報を発信していきます。さらに、より分かりやすく伝わるように具体的事例等も示すことで、多くの児童生徒や保護者の皆様に御理解と御協力をいただきながら、安全で安心して通える義務教育学校となるよう、取組を進めてまいります。

4－（１）調査結果（児童生徒）

基本事項

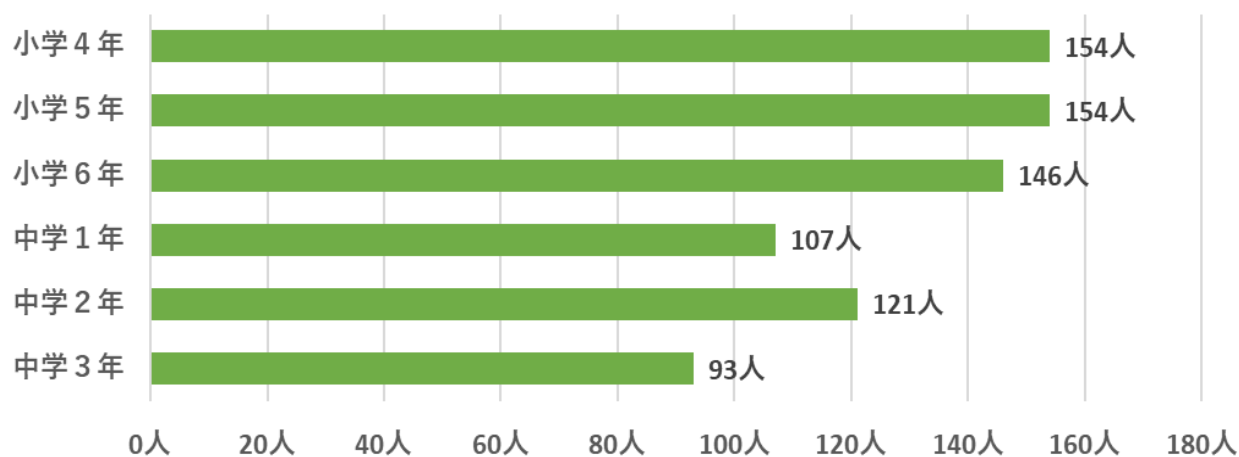
【児童生徒の通学校】

今、通っている学校を選んでください。（１つ）



【児童生徒の学年】

今の学年を選んでください。（１つ）



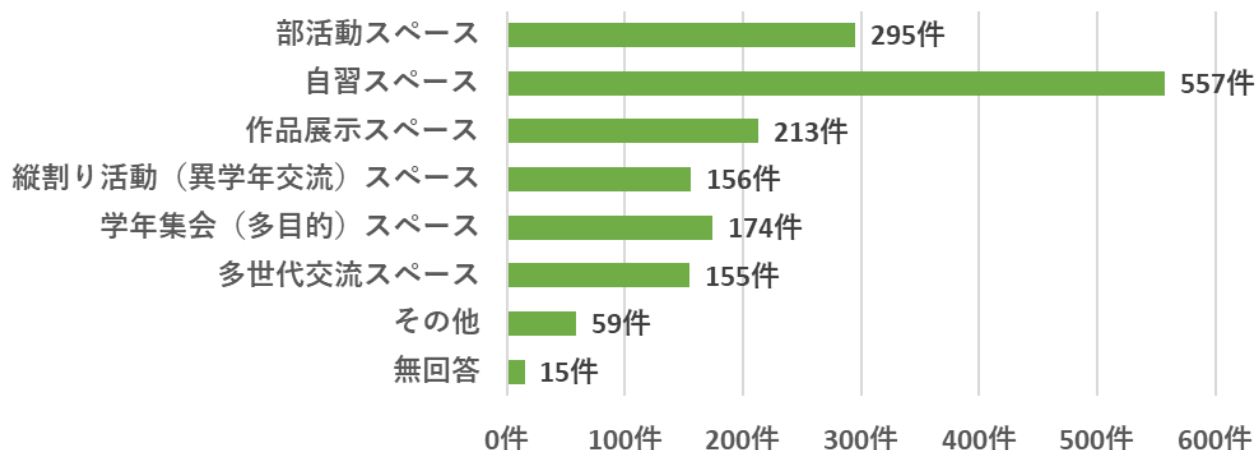
【児童生徒のクラス】

今のクラスを選んでください。（１つ）

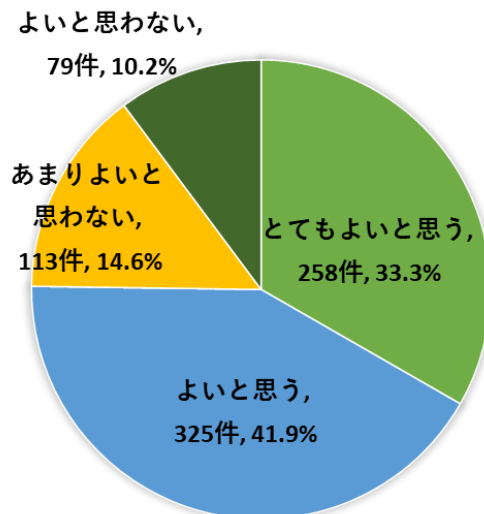
※学年とクラスを紐付けていないため、省略しています。

質問事項

- ① 志木第四小学校の校舎はどんな活動ができるとうれしいですか。みなさんのアイデアを教えてください。（いくつでも）



- ② 志木の森学園では、志木第二小学校校舎と志木第二中学校校舎をわたりろう下でつなぐ予定です。このことにより、1年生から9年生が一体的な校舎の学校で生活し、例えば、中学生と小学生が気軽に声をかけ合う機会が増えたり、運動場や図書室で一緒に学習したりします。このことについてみなさんはどう思いますか。（1つ）



「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した児童生徒は 75.2%、「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した児童生徒は 24.8%という結果になりました。

自由記述（任意）

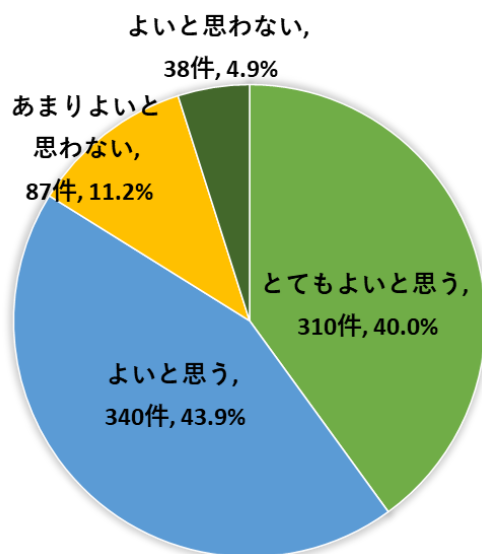
「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した意見から

- ・他学年との交流もできるし、下の学年がわからないことがあったら教えてあげられて復習もできるから。
- ・小学生といろいろ触れ合えるし次の2年生とかにも2中はこの場所だよと教えられるから。
- ・他の学年と交流することで、関わりが深くなるし一緒に学習する機会があれば学びも深まると思います。
- ・小学生、中学生が年齢、見た目、全て関係なくお互いに尊重し合えたら良いと思います。

「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した意見から

- ・1年生から9年生まで全員が揃うと、交流が深まるように思える一方で、みんなが喋ってしまうと思います。
- ・わざわざ中学生との交流をする必要はないと思う。
- ・無駄なお金をかけないで、もっと市の施設を充実させてほしい。
- ・クラスの人数が多くなってほしくないし先生たちもクラスの人数が増えると大変だと思うからです。

- ③ 志木の森学園では、小学校と中学校の先生がひとつの学校の先生となるため、すべての先生が1年生から9年生までのみなさんの相談にのって、支援してくれます。もちろん、みなさんもこれまで以上にたくさんの先生と話すことができます。このことについてみなさんはどう思いますか。（1つ）



「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した児童生徒は 83.9%、「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した児童生徒は 16.1%という結果になりました。

自由記述（任意）

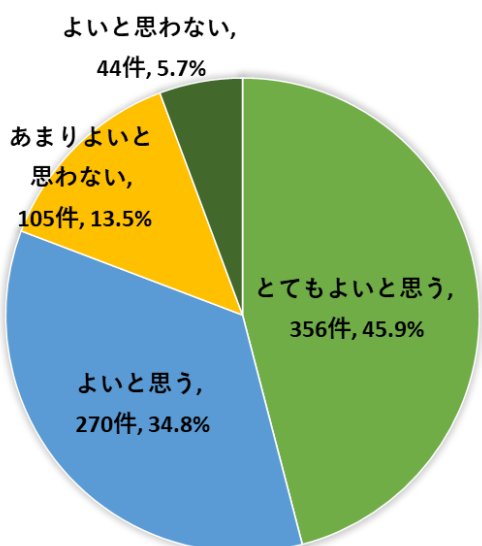
「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した意見から

- ・他の先生が教えてくれて、仲良くなれるから。不安な事も聞いてもらえるから、安心して学校に行けるから。
- ・今までの先生とも話せるのだったら、相談しにくいこととか、相談しやすくなると思う。
- ・自分に合う相談相手見つかると思うし、さまざまな大人と触れ合う機会ができると思ったから。

「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した意見から

- ・小学校の先生と中学校の先生はやり方や怒り方などが違うと思うから。
- ・今のままで十分であるから、あまり先生と相談する機会は少ないから意味はないと思う。
- ・たくさんの人とコミュニケーションがとれるが、9 学年も教えるのは大変だと思うから。

- ④ 志木の森学園では、1年生から9年生がお互いにどのような生活をしているのかを知ることができます。例えば、小学校のうちから部活動の様子を見たり、時には参加したりすることもできます。このことについて皆さんはどう思いますか。（1つ）



「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した児童生徒は約 80.7%、「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した児童生徒は 19.2%という結果になりました。

自由記述（任意）

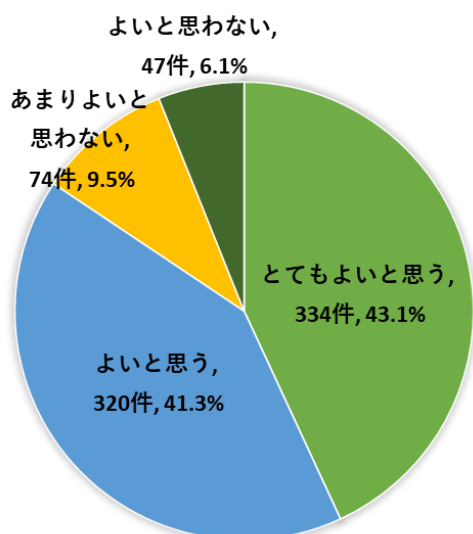
「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した意見から

- ・僕は、小学生の頃部活がどんなものか分からなくて不安だったから。
- ・自分が本当にやりたいような部活が見つかり、学園生活がさらに楽しくなると思うから。
- ・上級者のいいところをたくさん見つけられるから。良いお手本になり、下級生のためになれると思うから。

「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した意見から

- ・部活動の様子を見るだけならいいけれど、参加すると、逆に中学生に迷惑がかかりそうだから。
- ・小学生と中学生は体格が違いすぎて、小学生が参加すると怪我をする可能性があるから。
- ・早くから部活動のことを知ることはいいと思いましたが、小学校のクラブはどうするのが気になりました。

- ⑤ 志木の森学園では、一体的な校舎となることで、先生もみなさんも現在の志木第二小学校校舎と志木第二中学校校舎の移動がしやすくなります。例えば、小学校の算数の授業で、中学校の数学の先生が授業をする機会がこれまで以上に増え、小学校と中学校の違いや変化をなだらかにすることができます。また、これまで教えてくれた小学校の先生が、中学校の授業のサポートに入ってくれることで、難しくなる学習内容についても支援してくれます。このことについてみなさんはどう思いますか。（1つ）



「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した児童生徒は 84.4%、「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した児童生徒は 15.6%という結果になりました。

自由記述（任意）

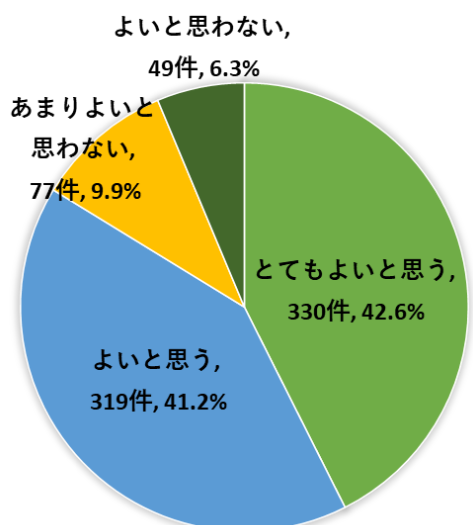
「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した意見から

- 意味がわからない図形の問題や分数の問題も中学校の先生と小学校の問題を復習できたりするから。
- 先生が増えることで個人で教えてくれる時間が伸びるから。
- いろんな先生に支援されるとホッとするから。
- 学習についていけないことがあったとしても多数の先生がいるので質問などがしやすいから。

「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した意見から

- サポートするのは良いけど、広い校舎で先生たちが何回も移動すると大変だと思うからです。
- 小学生 1 年生などの低学年がいきなり中学生の先生が授業するとあまり良いとは思わないからです。
- 小学校の子達に中学校の先生が教えると、「厳しいな」と感じる生徒が中にいると思うから。

- ⑥ 志木の森学園では、同じ学校の児童生徒として、上級生と下級生と一緒に学ぶ授業を行うこともあります。例えば、総合的な学習の時間の中で防災について一緒に調べ、避難所生活体験を想定した防災キャンプをすることや、音楽の授業でお互いの合唱を聴き合い、意見交換をするなど、これまで以上に多くの仲間とよりたくさんの経験ができます。このことについてみなさんはどう思いますか。（1つ）



「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した児童生徒は 83.8%、「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した児童生徒は 16.2%という結果になりました。

自由記述（任意）

「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した意見から

- 聞き合って、意見を交換することによって友達も増えて学べるのですごい良いと思います。
- 思いやりがない人も、段々思いやりを持つことが出来ると思います。
- みんなで一緒に意見を出し合いたいから、こんな意見もあるんだなと自分で学力を高めたいからです。

「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した意見から

- 新しい人との交流があまり得意ではないから。
- 中学生という存在がいると頼ったり甘えてしまい状況に応じて成長できないことがあると思う。
- 下級生は音楽のどこがいいとかは「ピブラート」とか、「アルト」とかはわからないと思うから難しいと思う。

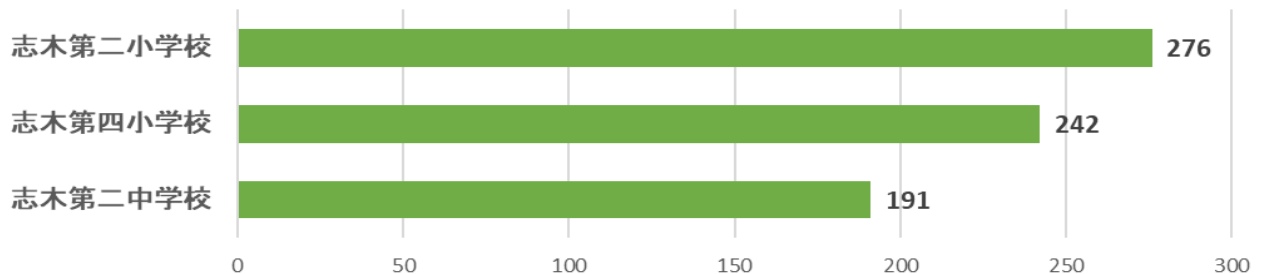
4－（２）調査結果（保護者）

基本事項

【児童生徒の通学校】

現在、お子様が通学している学校を選択してください。

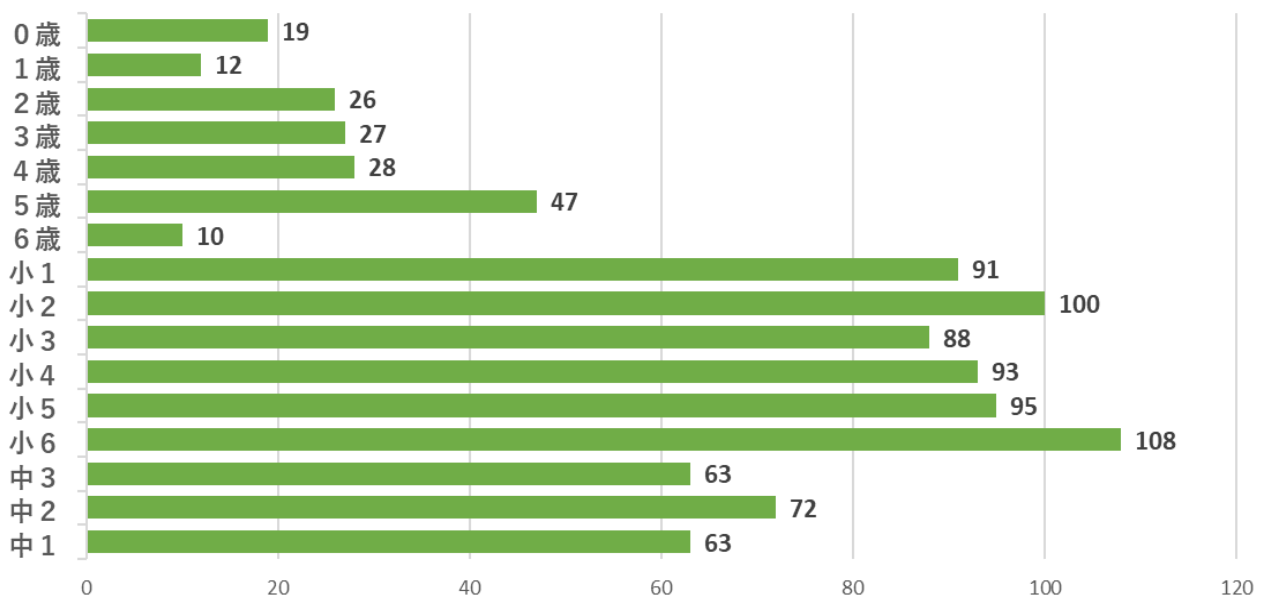
未就学児の場合は、入学予定の小学校を選択してください。（複数選択可）



【児童生徒の学年等】

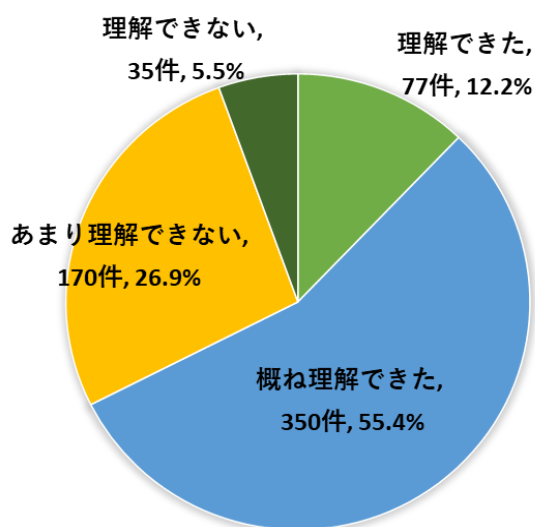
お子様の学年を選択してください。

未就学児の場合は年齢を選択してください。（複数選択可）



質問事項

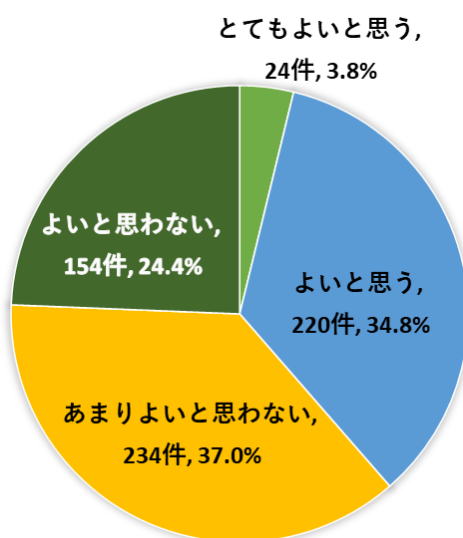
- ① リーフレットを見て、「小中一貫型小学校・中学校」と「義務教育学校」の違いについて理解することができましたか。（１つ）



「理解できた」「概ね理解できた」を選択した保護者は67.6%、「あまり理解できない」「理解できない」を選択した保護者は32.4%となりました。

約7割の保護者が、「小中一貫型小学校・中学校」と「義務教育学校」の違いについて理解いただいており、小中一貫教育における設置形態の理解が進んだ結果となりました。

- ② 志木の森学園（義務教育学校）では、今まで別々の学校であった小・中学校の教職員が、新たにひとつの学校の教職員組織となって、1年生から9年生までの児童生徒を「自分の学校の子供たち」として、9年間の学びを支援していきます。このことについてどう思いますか。（１つ）



「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した保護者は38.6%、「あまりよいと思わない」「よいと思わない」を選択した保護者は61.4%という結果になりました。

自由記述（任意）

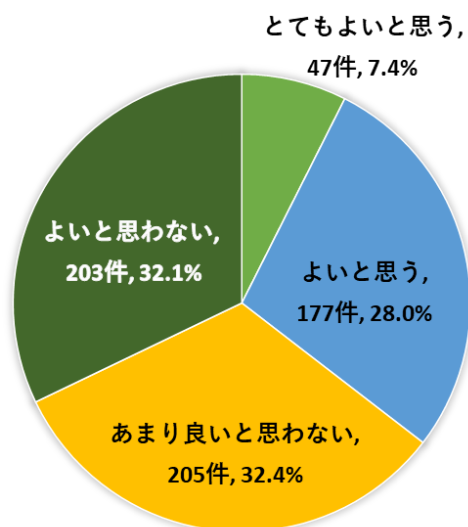
「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した意見から

- 多様な大人との関わりは成長に必要だと思うので、教職員に幅がでるのはよいことだと思う。
- 兄が中学に入学し、ギャップを感じたから。
- 一貫教育になることで、勉学に対するアプローチ方法が増えることになると思うため。

「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した意見から

- 母体が大きくなればなるほど組織として細かなところまで手が回らなくなる。それだけ教師の意見が一致しない。
- 中学生になってもお友達が変わらないので刺激がない。部活動の先輩後輩関係がゆるくなり成果が出なそう。
- 教員の負担増えるため、様々なところに影響がいくと思う。

- ③ 志木の森学園（義務教育学校）では、志木第二小学校校舎と志木第二中学校校舎を渡り廊下でつなぐ予定です。このことにより、1年生から9年生が一体的な校舎で生活し、例えば、中学生と小学生が気軽に声をかけ合う機会が増えたり、運動場や図書室で一緒に学習したりします。このことについてどう思いますか。（1つ）



「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した保護者は35.4%、「あまりよいと思わない」「よいと思わない」を選択した保護者は64.5%という結果になりました。

自由記述（任意）

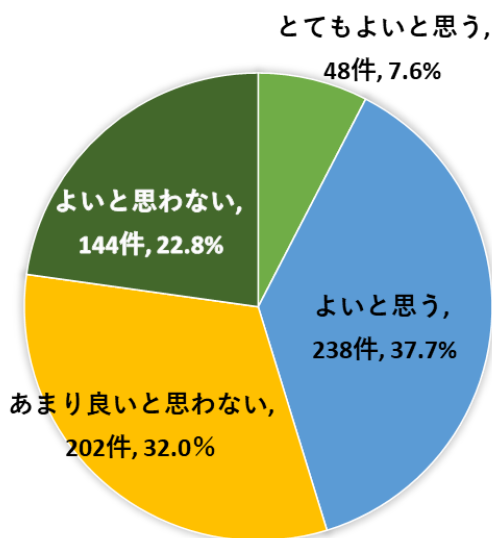
「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した意見から

- ・シームレスに繋がる校舎でなければ9年間通すという意義に反し意味をなさない。
- ・小学校高学年の段階の子が、中学の校舎に移っても小学校に行きやすい、小学校に居場所があるのは良い。
- ・昔と違って核家族化しているので、学校で様々な年齢の人間と関われるのは子供にとって良いと思う。

「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した意見から

- ・小学生と中学生は体格にも大きな差があり、小学生が怖い思いをしたり、ぶつかった場合など怪我に繋がる。
- ・正面玄関から行き来すれば良いと思う。車が通り危ないのであれば、職員の駐車は四小に停めるのは？
- ・中学ならではの先輩後輩関係が、小学生を含めるとまた変わると思うから。

- ④ 志木の森学園（義務教育学校）では、小学校と中学校の先生がひとつの学校の先生となるため、全ての先生が自分の学校の子供として1年生から9年生までの相談に乗り、支援します。児童生徒からも小・中学校の先生の区別なく、9年間を通してたくさんの先生と話をしたり、関わりを持ったりすることができます。このことについてどう思いますか。（1つ）



「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した保護者は45.3%、「あまりよいと思わない」「よいと思わない」を選択した保護者は54.8%という結果になりました。

自由記述（任意）

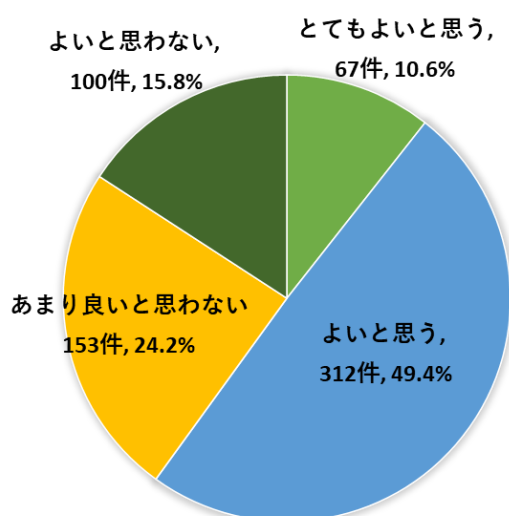
「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した意見から

- ・先生とも人と人とのつながりですので、色々な先生方と接していけるのは良いと思います。
- ・子供が関わる先生の選択肢が広がるのは良いこと。先生にも得意不得意もあるので、活かして関わって欲しい。
- ・生徒が相談しやすい先生を選ぶことができる反面、生徒が増える為、先生が一人一人を細かく見れるのか心配。

「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した意見から

- ・関わりを持つ事は良い事とは思いますが、小学校と中学校でそれぞれやっていた先生が突然一貫と言われても不安。
- ・小1の悩みと中3の悩みは全く違うので意味がない。逆に誰に相談すれば的確な答えが貰えるかわかりにくい。
- ・中学の先生は部活の顧問などもやられて、休みがない印象で、そこにさらに負担が増える印象があるからです。

- ⑤ 志木の森学園（義務教育学校）では、1年生から9年生がひとつの学校として、一体的な校舎で学校生活をするため、お互いがどのように生活しているのかを自然に知ることができます。例えば、小学生のうちから部活動の様子を身近で見たり、体験的に参加したりすることも可能となります。このことについてどう思いますか。（1つ）



「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した保護者は 60.0%、「あまりよいと思わない」「よいと思わない」を選択した保護者は 40.0%という結果になりました。

自由記述（任意）

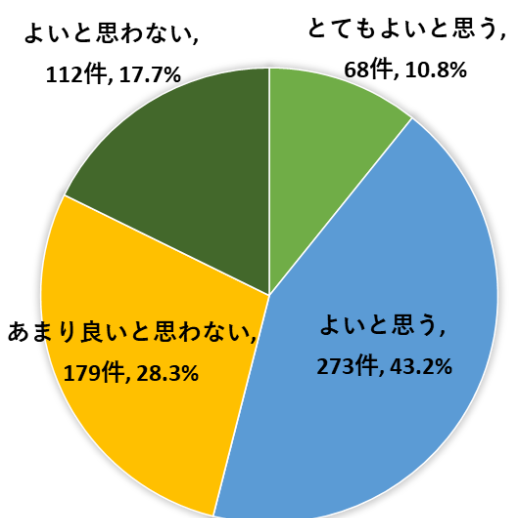
「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した意見から

- ・兄弟がいない子供は部活動や受験の情報が得られやすくなり、助かると思う。
- ・目的や目標などが持ちやすいのではないかと感じる。上級生にとっても自律するきっかけを与えるのでは。
- ・進学的不安が少しは減りそう。ただ、楽しそう、早く行きたいと思わせる様な中学校生活である事が大前提。

「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した意見から

- ・部活動の見学などは高学年に限ったりしないと、競技や活動に支障が出るのではないかと。
- ・それがそんなに重要だとは思わないから。小学校と中学校で生活に違いがある方が意識に張りが出ると思う。
- ・義務教育学校ではなく、一貫型の学校でも交流を図ることは可能。

- ⑥ 志木の森学園（義務教育学校）では、一体的な校舎となることで、例えば、小学校の算数の授業で、中学校の数学の先生が授業することにより、学習の段差をなだらかにすることができます。また、中学校の授業でこれまでの子供の学びの様子を知っている小学校の先生が、中学校の授業のサポートをすることで、つまずきを早めに把握し、対応することができます。このことについてどう思いますか。（1つ）



「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した保護者は 54.0%、「あまりよいと思わない」「よいと思わない」を選択した保護者は 46.0%という結果になりました。

自由記述（任意）

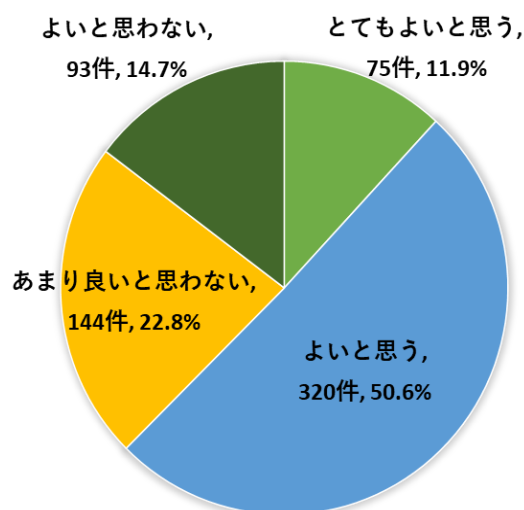
「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した意見から

- ・先生同士が、生徒の得意不得意を把握することは、指導のしやすさに繋がると思います。
- ・算数や数学の学びはスパイラルであり、系統性を考えた指導が可能だと考えるから。
- ・実際に授業を受けた子どもが数学に興味を持ったから。ただ、校舎が一体じゃなくても出来る事。

「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した意見から

- ・大して変わらないように思う。普段の様子をよく知る担任が授業をするほうが理解度が高まりそうに思う。
- ・働き方改革でなるべく先生の負担を減らす方向にきているのに、これでは現場の負担が拡大します。
- ・小学生には小学生の、中学生には中学生の、それぞれの発達段階での成長に応じた指導をするべき。

- ⑦ 志木の森学園（義務教育学校）では、異学年での合同授業を行うこともあります。例えば、総合的な学習の時間の中では、学年を超えた多くの仲間が一緒になって話し合いや調べ学習をしたり、音楽の授業でお互いの合唱を聴き合ったりするなど、小学生と中学生が交流する学校生活の中でこれまで以上にたくさんの経験が得られます。このことについてどう思いますか。（1つ）



「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した保護者は 62.5%、「あまりよいと思わない」「よいと思わない」を選択した保護者は 37.5%とい

自由記述（任意）

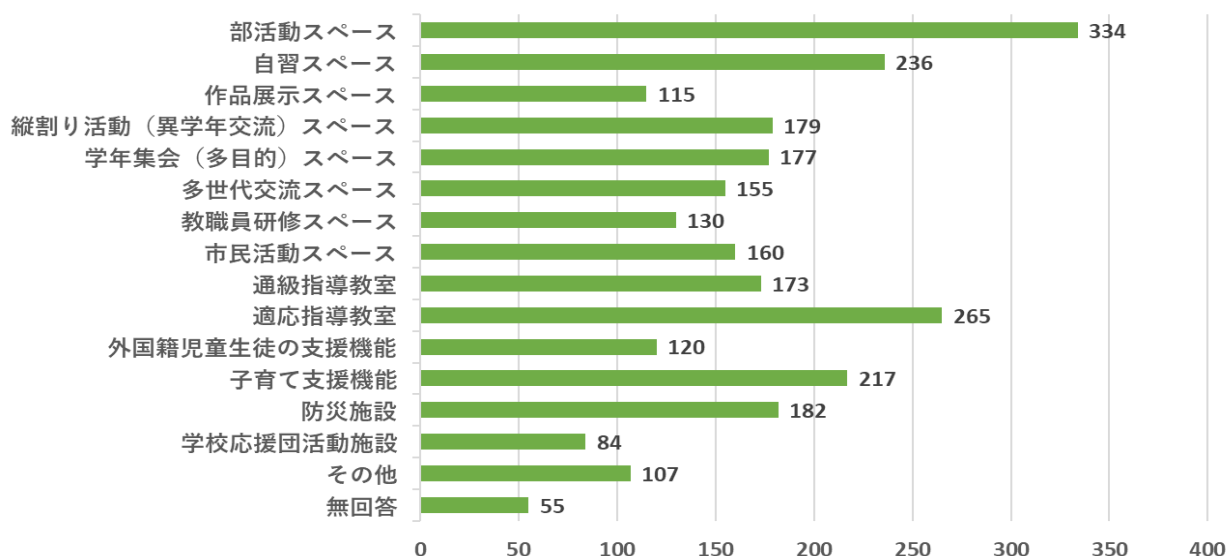
「とてもよいと思う」「よいと思う」を選択した意見から

- ・閉鎖的なコミュニティの中なので、異学年交流は必要と思う。今は子供たちも楽しみにしている。
- ・世代間の交流は最も推し進めてほしいところ。異年齢保育と同じような効果が期待できるのでは。
- ・イエナプランの様な異学年交流は教育的効果も大きいのでぜひ推進してほしい。
- ・小学校低学年は学校に慣れる事が優先なので、不安にならないよう中学生とは高学年のみでいいと思う。

「よいと思わない」「あまりよいと思わない」を選択した意見から

- ・良い取り組みだが、校舎が一体的にならなくても出来ることではないか。義務教育学校以外ではできないのか？
- ・今のままでもこの程度の交流は可能。一貫にする必要はない。
- ・多感な中学生に色々と押し付ける形にならないかと心配です。
- ・今まで小学校高学年が担っていた役割を中学生が担うことになる、高学年のリーダーシップが育たない。

- ⑧ 志木第四小学校では、どのような活用ができるとよいと思いますか。よいと思う活用方法があれば選択してください。（複数選択可）



4－（３）自由記述（抜粋）

ご意見の内容については、趣旨を損なわないよう注意して一部要約・抜粋しているものもあります。

1 保護者自由記述

① 期待すること

- ・核家族化、少子化が進んでいて、早くから多世代と関わる機会ができることが良いと思います。また、先生が専門性を持って授業をしてくれることにより、より学習の質が高まると思います。ぜひ早く実現して欲しいと思っています。
- ・何事も「まずやってみる」ことが重要。義務教育において先駆的な市になればよいと思う。
- ・生徒のことを思いやった素晴らしいものだと感じています。生徒を第一に考え志木市に住んでいてよかったと思えるような素敵な学校にしていきたいです。
- ・市で説明している利点を違えず、反対派の懸念内容を杞憂となる運営を求める。「中学生になること」は従来転機であるため、中1ギャップの解消を狙いつつ「特別な進級」の経験はしてほしい。
- ・先生方のご負担や全校の人数が増えることによる問題など様々あると思いますが、四小と二小で分かれてしまった友達と再び一緒に通えることを楽しみにしています。子供たちが楽しく学び合う学校生活空間となってくれたらと願います。
- ・目指すところは子供たちの輝く未来のための教育ですので、教育者、保護者、児童、地域の方が一丸となって前向きに学園創設に関われるよう努力していただきたいと思います。
- ・新しい取り組みを応援したいですし、早く子供たちに色々な体験をさせてあげたいです。
- ・一部自治体だけにとどまらず、全国において教育の在り方について考慮する必要がある。
本学区は移行に踏み切る価値のある学区規模であることから他の例に比べるとクリアしやすい部分もあると考えるため、段階的に移行できるように願う。
- ・高学年は下級生のお手本となるよう成長し、下級生はそれをお手本としてほしい。多くの先生が関わる分、一人一人の問題の把握が希薄になることも考えられる。いろいろ変わることがあって大変ですが、生徒（特に高学年）も一緒になって改革を進めることで、押しつけではなく、主体として考えて行けると思うので、生徒の意見を聞いてほしい。
- ・新しい学校を我が家は楽しみにしています。始めはバタバタするでしょうが、家庭でもフォローしますし、何かあるたびに一つ一つ解決策を考えればいいのではないのでしょうか。
- ・縦割りで活動するのが苦手な子供もいます。登校するだけでも必死な子供もいます。ぜひ、頑張らないと普通の学校生活を送れないそんな子供たちもしっかり受けとめて、この義務教育学校がスタートしてくれることを願います。
- ・昔と比べて、子供達の個性が豊かになっていると感じる一方で、先生の人数が不足しているのではないかと感じる。身体も心もどんどん成長する段階の子供達を見守り、指導するのは大変なことだとは思っているので、先生の人数が増え、今の子供達をサポートできる体制ができるといいなと思います。子供達にとって、イキイキと自分らしく成長できる学校になることを応援しています。
- ・クラス定員や教員の人数で、実態の人数と目指すべき人数や質、実現の施策を明示頂きたいです。明確な目的とその根拠を持って、リアルな数字を含めて検討頂きたいです。個人的には、1人の先生が高学年～中学の授業を見ることで、学習面で小中のギャップが埋まることを期待したい。
- ・家庭に持ち帰り話す時間、クラスで考える時間を。そしてそれを反映させてあげて下さい。周りの住民が通うわけではないと思います。楽しみにしています。

- ・義務教育学校化の方向性は間違っていないと思いますので、ぜひこのまま推進してほしいです。
- ・市民活動に中学生が一緒に参加する形のゆるやかな部活動・課外活動があってもいいと思う。
- ・我が家では新しい学校ができるのを楽しみにしています。先生方に育てられた子供達は、きっと新しい環境でも、自分で考え、仲間と話し合い、先生方に教えていただきながら、道を切り開いていくと思います。
- ・大人の事情よりこれから未来のある子供達がこの学校を出て良かった、楽しかったと心から思えるなら良い取り組みなのかもしれない。

②要望したいこと

- ・全国で義務教育学校になった所や小中一貫教育に変更した所の例や特色を色々見たいです。
- ・英語は低学年から教えて欲しい。高校受験に必要な英検も小学生の時に受けられるといいなと思う。
- ・学校図書館を充実させてほしい。3校の蔵書を司書がきちんと管理し、各校1人常駐し、毎日勤務し、子どもの居場所と見守りを確保してください。自習室としての機能もできるようになるといいと思います。学校司書の勤務時間を今より増やし、滞在させることが必要です。
- ・教員数は減らさず、支援できる教科担当や、部活・クラブの専門コーチなどを増やし、また、小中一貫になることで給食をオーガニックにするなど、ぜひ、生徒たちが伸び伸び充実した学校生活を過ごせるようにして欲しいです。
- ・開始後は子どもたち全員にアンケートをとって本当に成果があるか判断してもらいたい。
- ・間違った情報からも不安になることが多いので、地域の掲示板なども活用して、正しい情報を伝えてほしいです。
- ・9年制など関係なくもっとわかりやすい授業や個々のレベルに合わせた指導やフォローを強化してほしい。
- ・全体的に良い取り組みだと思う。思春期の学生と、低年齢児の関わり方など初めは必要なケアが多いと思う。そのため職員の増員、ケアワーカーの常駐など心理的な支えとなる仕組みをきちんと確保して欲しい。
- ・元々の小学校でやっている伝統的な事を無くしてほしくないです。四小の鼓笛隊は続けて下さい。
- ・長期の休みなどに短期の習い事みたいなものがあると良い。高学年が低学年に教えるような授業があると良い。
- ・義務教育学校に関して、時代変化には対応していかななくてはいけないと思うが、志木は通級指導教室が少なすぎるので、二小にも通級教室を作るべきでは？つまりいてる子のサポートをもっと手厚くすべきだし、出来る子はもっと伸ばしていったらあげられるようにしてあげなければ勿体無い。各自の個性や得意を伸ばしてあげて自信をつけさせるべき。自己肯定感を高められる仕組みが必要かと思うが、今の教職員は授業だけで手一杯では。義務教育学校になると更に人数も増え、困り事がある生徒が埋もれていきそうで不安です。
- ・必要と思われるような説明や問題点の解決し、賛成に転じるようにしてほしい。
- ・既存の義務教育学校でのネガティブな面を事前に志木市ならどうするかと解決しつつ、盛り込んでいただけたらいいなと思います。
- ・何が決まって何が決まっていないのかが、非常にわかりにくい。HPなどで、解決すべき項目一覧を作り、済か否か表示して欲しい。
- ・現在の中学生は制服だが、今後は私服になるのか？もし制服廃止にしても毎日私服はお金がかかる

ため、せめて指定ジャージだけは残して欲しい。

- メリットはたくさんあると思うので、その具体的なカリキュラムを提示してください。そうすれば保護者も理解しやすくなります。子どもは必死で受け入れようとしています。今行われている学校間の交流も義務教育学校化への取り組みだよと明確に言ってください。そうしたら子どもたちも安心すると思います。先輩に憧れていくと思います。子どもがよい顔をしていれば保護者も納得します。よろしくお願いします。
- 子どもにとっては、心と体の成長変化に加え、義務教育学校への移行は、大きな変化になると思うので、その負担を最小限にとどめていただきたいと思います。そのサポート体制も整えた上で実施していただきたいと思います。
- 同じ校舎で過ごす同じ年の子どもが同じ思い出を語れるようにさせてやって欲しい。
- 子供たちにとってより良い教育を受ける場として欲しい。教員不足もあると思うが、児童数に応じて適正な配置をして欲しい。渡り廊下は空中ではない形で作って欲しい。「義務教育学校になれば、先生方から自校の児童として関わりや支援を受けられる」という説明があったが、義務教育学校になったからといって出来るものではない。自校で現状できていると思えず、今すぐ学校内でやって欲しい。義務教育学校となった際には、掲げられてきた内容を理想だけで終わらせず、実現して欲しい。
- 新校舎を建てるべきであり、渡り廊下は必要ないと思う。市役所を新しく建てたのに新校舎を建てない納得できる理由がない。また、教員の仕事が多いので人数を増やせば良いと思う。志木市は土地もなく観光もないので、教育に投資をしなければ生き残れなくなると思う。
- 管理職なども含めた教職員の人数が、一貫型の場合と義務教育学校になった場合とでどう変わるのか見通しを示してほしい。
- 一人一人の良い個性を伸ばして自己肯定感を高めていける、時間に追われる事なく余裕を持って楽しみながら成長できる、思いやりが育まれる、そんな学校生活をおくれる場所であって欲しい。
- 義務教育学校の良いところばかりでなく、起こるであろう問題点もしっかりと明らかにし、それをどうするのかをきちんと回答してほしい。
- その時々学習、成長、生活、子供一人ひとりに目を向ける環境づくりをすすめてほしい。大掛かりに環境を変えることで、今の学校の課題を解決しようとするのではなく、今できること、しなくてはならないことに目を背けないで取り組んで欲しいと強く思います。
- メリットだけでなく、デメリットも出した上でそこに対する対策案も教えてくださるとより安心できます。
- なぜ、「中1ギャップと不登校の予防」に義務教育学校がよいのか、具体的に目指している学習の質を上げる教育目的の提示と教師のワークエンゲージメントが高まる労働環境の改善についてエビデンスを説明してもらいたい。また、もしも「中1ギャップと不登校の予防」が狙いなら、「もっといい教育、志木の森学園」とか教師が生徒に説明する際、分かりやすいキャッチフレーズを明示すべきです。
- 今のままでいい。無駄な渡り廊下を作るのをやめてほしい。やる必要性がない。
- 朝起きられない起立性調節障害の子供が70万人を超えて不登校も増え続けています。将来を担う大切な宝なので学校に来られない子をケアし午後からでも教育の機会を担保するための教員配備などにお金を使っていただきたいと思います。
- 志木四小校舎のほうが新しく、こちらを小学校として残してほしい。子どもの安全が大事。

渡り廊下などなくても交流はできる。歩道をなくして校庭をつなげてしまえばいいのでは？

③ 疑問・心配・不安に思われていること

- ・初めての事だから期待より不安が大きい。とにかく、子どもの達の事を一番に考え、良いものにしてください。
- ・学童はどのようになるのか知りたいです。
- ・子供が少なくなっているのは事実なので、二小と四小を合併することではなぜダメなのか。
- ・今のままで、中学校との交流を増やし、中学生になるイメージを膨らませられれば良いのでは。
- ・のびのびと子供達は校庭で遊べるのか。クツ箱、トイレも足りないと思う。運動会も1年から6年まで一緒にやれなくなるのは残念。無駄な移動時間が増えてしまう。
- ・説明会でもあったように、中1ギャップ解消が目的であるなら、志木二中校区での小中一貫教育とその前とで中1ギャップ解消が見られたデータを使い、義務教育学校を推進するという説明で良いのではないかと考えている。
- ・メリットの説明はこれまで十分にありましたが、考えられるデメリット（注意点）についても予め伝えていかないと、学校と保護者の協力体制構築は難しいのではないのでしょうか。
- ・小中一貫教育についてはいいなと思いますが、交友関係がうまくいかなかったときに心配だと感じています。
- ・学年に関係なく交流を持つのはいいことですが、低年齢の子達が高学年の悪い影響を受けなければ良いと思います。
- ・中学ギャップは誰にでもあることだし、それを楽しんだり、成長したりする場でもあると思う。また使用しているものや制度が今現在バラバラなのに一緒にする時混乱も生じる可能性がある。
- ・学年にもよると思いますが、低学年にはあまり向いてないように感じました。いきなり小中一環というより、少しずつ交流機会を作り徐々に移行していくのもありなのかなとも思います。
- ・先生の不足問題や中学校の先生が小学校の低学年の扱いなど慣れていないと思うのでそのギャップなど心配。より細やかな教育現場が保たれないのではないかと。
- ・小学生と中学生が関わる機会が増えたり、先生方がどちらの授業も見てくれたりというのはメリットのような気がします。個人的には学年の区切り方も違和感があるし、3校舎あるのに2校舎に詰め込まれる形になるのもちょっと…という気がします。
- ・同じ校舎で学習するメリットがあるのなら1年～5年まで学区別で二小と四小。6年～中3が二中校舎を希望。二小と四小の空いた教室を中学生の部活の場に。交流がうまれます。
- ・説明を読んでも、小学校と中学校の間を橋で繋ぐ必要性は全くないと感じました。わざわざそこに税金をかけないで学童保育や館地区の児童館増設にお金をかけて欲しい。また、生徒数の増加も子供たちがとても窮屈ではないかと心配です。
- ・小学生で人間関係や学校生活につまずいた場合、中学への進学タイミングで心機一転出来ていたものが、一貫校になることによってそれが出来なくなる懸念があります。
- ・先生、生徒、どちらも寛容な心でいられる余裕があり、心身共に健康で、安全に学校で過ごして欲しいと心から思います。校舎を新築しないのであれば、3校舎に分散している今が何もかも丁度いいと感じます。
- ・この校区だけを義務教育学校にすることに、最も違和感を覚えます。実際の教育現場を担うのは1人1人の教職員です。義務教育学校独特の知見をここで得たとしても、異動する先は違う仕組みで

回っている。定期的に異動があり、管理職も2～3年で変わる中、コンセプトは良かったとしても実際に機能するのか、単なる負担増につながらないか。一旦全ての校区を一貫型にし、たった2年でさらに義務教育学校にするというのは、現場の混乱、ひいては子どもたちの不利益になるのではないかと不安に思います。

- 先生の人数が減ってクラスの人が増え、校舎を複数使うことによって移動に時間がかかるのではと心配している。それぞれの学校の良さが義務教育学校になることで無くなってしまわないか。義務教育学校にするならば、子どもたちがより良く活動できるような環境にして欲しい。
- 時代に合わせ制度が変わっていくのは仕方ないことも理解できます。ただ理想論ばかり表に出てきている気がして実際のやり方が現場任せで教員の負担になるのではと心配です。例えば教員がやらなくても良いことをシルバー人材のように保護者世代で(採点や提出物確認等)分配していく。単発アルバイトのような。など、教員の働き方も見直すべきではないでしょうか。
- 先生方の働き方改革もあり、行事も削減されている中で他学年との交流時間の確保がどのくらい出来るのか不透明です。また、小学校、中学校としっかり区別を付ける事で生活や学業にもよい切り替えのタイミングとなる子もいると思います。
- 小中9年の人間関係の固定化によりいじめが長期化してしまう懸念への対策は絶対に必要だと思います。また、第二次性徴の時期でもあり、既存の義務教育課程で不十分な性教育の充実を図ってほしいです。教員による加害はもちろんのこと、児童生徒間での性加害/被害についても一層の対策が求められると思います。
- 中1ギャップが、それほど大きな問題ととらえられない。不登校についての記述もありましたが、効果があるのか？義務教育学校にしたとしても、一度不登校の状態になってしまったら、再度通常通りの登校をすることは難しいのではないかな？
- 長期的に考えて、連絡通路で繋ぐことはあまり現実的ではないと思う。新校舎や二校の敷地をつないで、もっと行き来がしやすく安全な方法を考えて欲しい。連絡通路は、10年くらいのことしか考えられていないと思う。将来の子供達のことには考慮していないように感じる。
- 小学校6年生は最高学年として役割も多く大変だとは思いますが、子どもの心の成長はとても大きいです。自分達がリーダーとして引っ張っていくんだという気持ちや自覚、小5までは全く感じられなかったものを感じました。また、卒業の頃にはやりきったという満足感と共に大きな自信を持って、中学校へ進学しました。小学校から中学校は学習面、生活面など大きく変わり、子どもにとって大きな壁であるとは思いますが、その壁をできるだけ低くしてあげる必要はありますが、無くしてはいけないと思います。義務教育の間に壁を乗り越える力をつけさせてあげるのが大人の役割だと思います。
- 正直なところ、小中一貫校になることへの良さがあまり伝わってきていない。だが、中一ギャップをなるべく感じないようにする必要性はあると思う
- もし万が一すでに小中一貫校になることが決まっているなら、1年生から4年生(志木第四小)、5年生から7年生(志木第二小)、8年生9年生(志木二中)と校舎を分けたほうが安心出来る。
- 昔と違い外国籍の御子息等も増え先生方の責務も増えていると思います。まずはそういうところを色々クリアしてからでも良いのではないのでしょうか？
- 小学生と中学生は丁度良い年齢で切り替えになっていると感じます。中学校で二小と四小が合流することでそれまでの人間関係とは違った流れができ、救われる子も少なからずいると思います。
- 9学年交流は現実的にどの学年の子供にとってもストレスでしかない。中学校の壁は、その後の人

生の壁（高校で周囲がほぼ知らない人だらけになること、大学で遠方に 1 人で行くこと、社会に出ること）を乗り越えるステップなのに、それを大人の決めつけ（中学の壁はないほうが良い）でなくすのは、良いことではない。いつまでも人生の壁を取り除いてあげることとはできないのだから。

- 教育の質向上のために何をすべきかどんな予算をさくべきかを第一に考えて欲しい。教育への投資は未来の志木市への投資。教育こそ未来を作ると思う。
- 小学生は純粋な時期なので対応する大人を増やして手厚くするのは良いことだと思うが、中学の先生が小学生たちに対応できるのか疑問。
- 高校受験を控えた中学生はどうしてもピリピリしたりして、まだまだ幼い小学校低学年の行動にストレスを感じて、諍い、若しくは怒鳴ったりして言うことを聞かせようとしたりすることも起きるのではないかという不安が親としては考えてしまう。
- 中学の先生には、中学生 3 年間という難しい発達段階のプロのままでいてほしいです。小学生には、小学生らしく部活など気にせず外遊びを楽しんで欲しいです。
- 子供が少なくなっている今、小学校二つというのはもったいないと思うので、二小四小合併は仕方ないのかもしれない。
- 義務教育学校開設理由として「不登校児を減らすこと」を挙げていると思うが、最近では不登校を無理に直そうとする社会では無くなって来ていると思う。
- 制服も、体操着は統一でも良いが、小学校の成長著しい時期の制服購入、サイズが大きくなって買い直しは経済的に負担が多い。兄弟が多いので余計に負担です。量販店などのスクール服や節度あるルールを守って全員私服でも良いのでは、と思う。
- 移行期にいる子どものケア、先生方の負担が心配です。それをどこまで予測しているのか、運動会など具体的な行事の取り組み方法について知りたいです。
- 義務教育学校にするのに、中途半端に小学校の卒業式と中学校の入学式に似せた行事をする必要はない。小中分けて考えない様にしたいのかしたくないのか中途半端。

市ホームページに小中一貫教育に関する Q&A を掲載しておりますので御覧ください。

2 志木第四小学校の活用方法について

① 児童生徒の意見

- ・カフェ
- ・万葉草花園にみんなで育てる植物を置きたいです。
- ・相談室
- ・ふれあいスペース
- ・イベントなどのポスターを貼るスペース 植物を育てるスペース
- ・ゲームができるスペース
- ・学年全員での大きなイベント
- ・先生に質問をするスペース
- ・たくさんの本がある図書室
- ・運動部や地域の人が気軽に使えるような陸上競技場にしてほしい。
- ・校庭に木を植えて、クワガタや虫とりができるスペースがいいと思います。
- ・志木第二小学校でクラブの人数が多すぎた時、志木第四小学校を使えるようにする。
- ・不登校の子が行きやすい部屋など
- ・動物と触れ合いスペース
- ・自習をする所を作ったら、集中して勉強に取り組める。
- ・遊び場
- ・小さなこどもたちが遊べるスペース
- ・「志木の森学園博物館」にしてワークショップや志木の歴史が学べるいいところにしたい。
- ・休み時間に、ゆっくり休めるスペース
- ・いち早く、算数や社会の学習ができ、わからなかったところを復習できる「しっかり学習スペース」、色々な物が充溢した、「フリースペース」
- ・児童館みたいに遊ぶところにして欲しい。
- ・自習スペース
- ・高校受験対策講座が受けられるスペース
- ・防音室

② 保護者の意見

- ・四小は、市民体育館がなくなるということなので体育館のようにつかえたらいいのではないかな。
- ・読書スペース
- ・あくまで子供に向けたものが良いと思う。学童の拡充や共働き世帯を支援出来るような使い方、二小二中では難しい専門性の高い競技が出来る施設(例えばフットサルコートやダンスやスケボーなど)昔はなかったけど今はオリンピック競技にもなっている競技、少子化に合わせた少人数スポーツが出来る施設にすると良いのではないかな。
- ・外部の学べるスペース
- ・中高生の居場所づくり(例 文京区の取り組み)
- ・保育園
- ・長い夏休みに友達との時間がかなり減っている気がしており、プールを解放して欲しいと思う。親が働いていてなかなか自分から友達を家まで誘いにくい子は、ずっと家に居るのもなんで

すし、プールが1つ友達とのやりとりにもなるし、暑い夏休みの選択肢にして欲しい。

- 学童
- 保護者や民間へ貸しスペースとして提供
- 児童館としての活用をして欲しい。
- 丸善雄松堂が自治体や企業と連携し「知」「学び」軸に多面的なまちづくりを推進しています。福井県敦賀市では複合図書館やイベントスペース、その他、素晴らしい複合施設を設置し市民に親しまれています。その他にも企業と自治体の連携による街づくりについて、成功例を参照願いたく存じます。
- 新座には公民館など自習室があるが志木は図書館のみ、しかも3時間制限があるので土日も19時くらいまで自習できる施設が欲しい。
- 四小のグラウンドが1番水捌け良く使いやすいのでグラウンドは活用した方が良いと思う。
- 今のまま小学生が通う小学校で良い。校庭も広く、子供たちにとって学ぶことが多いと思う。
- 普通に校舎として使用
- 現在の小学校として使用を継続
- 施設が新しいので使ってゆくゆくは高齢者施設等とマンション
- 志木四小をスクラップし、新しい9学年入る校舎を建てる。建て終わったら、引っ越しし、志木二小と志木二中を校庭とする。古い二小を先にスクラップするのも良いと思う。
- レンタルスペース、ドッグラン
- 民間企業への売却
- 市民体育館が移転するのもあるが、志木市に存在していない総合運動施設(公式戦の行える体育館、人工芝グラウンドなど)が欲しい。
- 子どもたちの第二の居場所的な施設、多目的に使える場
- 1年生と地域の年長さんが関わりを持てるような、学校に慣れられるような施設
- 包括支援センター(移転)、教育サポートセンター(移転)、前期高齢者就労支援とPTA業務のマッチング、小中一貫型を継続して、現状通り4小としての利用を継続するのが最もいいと思います。
- 四小も校舎として使用すべき
- 総合病院
- 地域の多世代交流や学校とは違う目的での多目的スペースとして活用していただけたらいいなと思っています。学校教育の一環とすると、志木の森学園に馴染めない子の居場所として、本来の学校生活とは隔絶されてしまうような気がします。
- 教育サポートセンター、障害等の基幹相談センター、前期高齢者の就労支援(PTAや学校の係活動を就労にする)
- 今後20年、50年を見据え、現在の場所に近代的な複合施設を新たに建設し、小中一貫校を創設する案はいかがか。若い世代が、この学校へ進学させたいと居住すれば地域も活性化し、更に税収も見込まれる。長いスパンで考えて欲しい。

参考資料

義務教育学校設置に向けての意識調査質問項目【児童生徒用】

基本事項

Q 今、通っている学校を選んでください。(1つ)

- 【選択項目】
- ・ 志木第二小学校
 - ・ 志木第四小学校
 - ・ 志木第二中学校

Q 今の学年を選んでください。(1つ)

- 【選択項目】
- ・ 小4
 - ・ 小5
 - ・ 小6
 - ・ 中1
 - ・ 中2
 - ・ 中3

Q 今のクラスを選んでください。(1つ)

- 【選択項目】
- ・ 1組
 - ・ 2組
 - ・ 3組
 - ・ 4組
 - ・ 特別支援学級

質問事項

Q 先ほどの話を聞いて、志木第四小学校の校舎ではどんな活動ができるとうれしいですか。
みなさんのアイデアを教えてください。(いくつでも)

- 【選択項目】
- ・ 部活動スペース
 - ・ 自習スペース
 - ・ 作品展示スペース
 - ・ 縦割り活動(異学年交流)スペース
 - ・ 学年集会(多目的)スペース
 - ・ 多世代交流スペース
 - ・ その他

Q 志木の森学園では、志木第二小学校校舎と志木第二中学校校舎をわたりろう下でつなぐ予定です。このことにより、1年生から9年生が一体的な校舎の学校で生活し、例えば、中学生と小学生が気軽に声をかけ合う機会が増えたり、運動場や図書室で一緒に学習したりします。

このことについてみなさんはどう思いますか。(1つ)

- 【選択項目】
- ・ とてもよいと思う
 - ・ よいと思う
 - ・ あまりよいと思わない
 - ・ よいと思わない

【自由記述】 ・ そう思った理由があれば教えてください。(50字以内)

Q 志木の森学園では、小学校と中学校の先生がひとつの学校の先生となるため、すべての先生が1年生から9年生までのみなさんの相談にのって、支援してくれます。もちろん、みなさんもこれまで以上にたくさんの先生と話すことができます。

このことについてみなさんはどう思いますか。(1つ)

- 【選択項目】
- | | |
|-------------|----------|
| ・とてもよいと思う | ・よいと思う |
| ・あまりよいと思わない | ・よいと思わない |

【自由記述】 ・そう思った理由があれば教えてください。(50字以内)

Q 志木の森学園では、1年生から9年生がお互いにどのような生活をしているのかを知ることができます。例えば、小学校のうちから部活動の様子を見たり、時には参加したりすることもできます。

このことについて皆さんはどう思いますか。(1つ)

- 【選択項目】
- | | |
|-------------|----------|
| ・とてもよいと思う | ・よいと思う |
| ・あまりよいと思わない | ・よいと思わない |

【自由記述】 ・そう思った理由があれば教えてください。(50字以内)

Q 志木の森学園では、一体的な校舎となることで、先生もみなさんも現在の志木第二小学校校舎と志木第二中学校校舎の移動がしやすくなります。例えば、小学校の算数の授業で、中学校の数学の先生が授業をする機会がこれまで以上に増え、小学校と中学校の違いや変化をなだらかにすることができます。また、これまで教えてくれた小学校の先生が、中学校の授業のサポートに入ってくれることで、難しくなる学習内容についても支援してくれます。

このことについてみなさんはどう思いますか。(1つ)

- 【選択項目】
- | | |
|-------------|----------|
| ・とてもよいと思う | ・よいと思う |
| ・あまりよいと思わない | ・よいと思わない |

【自由記述】 ・そう思った理由があれば教えてください。(50字以内)

Q 志木の森学園では、同じ学校の児童生徒として、上級生と下級生と一緒に学ぶ授業を行うこともあります。例えば、総合的な学習の時間の中で防災について一緒に調べ、避難所生活体験を想定した防災キャンプをすることや、音楽の授業でお互いの合唱を聴き合い、意見交換をするなど、これまで以上に多くの仲間とよりたくさんの経験ができます。

このことについてみなさんはどう思いますか。(1つ)

- 【選択項目】
- | | |
|-------------|----------|
| ・とてもよいと思う | ・よいと思う |
| ・あまりよいと思わない | ・よいと思わない |

【自由記述】 ・そう思った理由があれば教えてください。(50字以内)

小中一貫教育



志木の森学園

※この資料を基本とし、各校の取組や実態に合わせ
編集したうえで、校長より児童生徒へ説明しました。

義務教育学校って何？

小中一貫教育を進めるための
新しい学校の形です。

令和9年4月から
義務教育学校「志木の森学園」
としてスタートします。



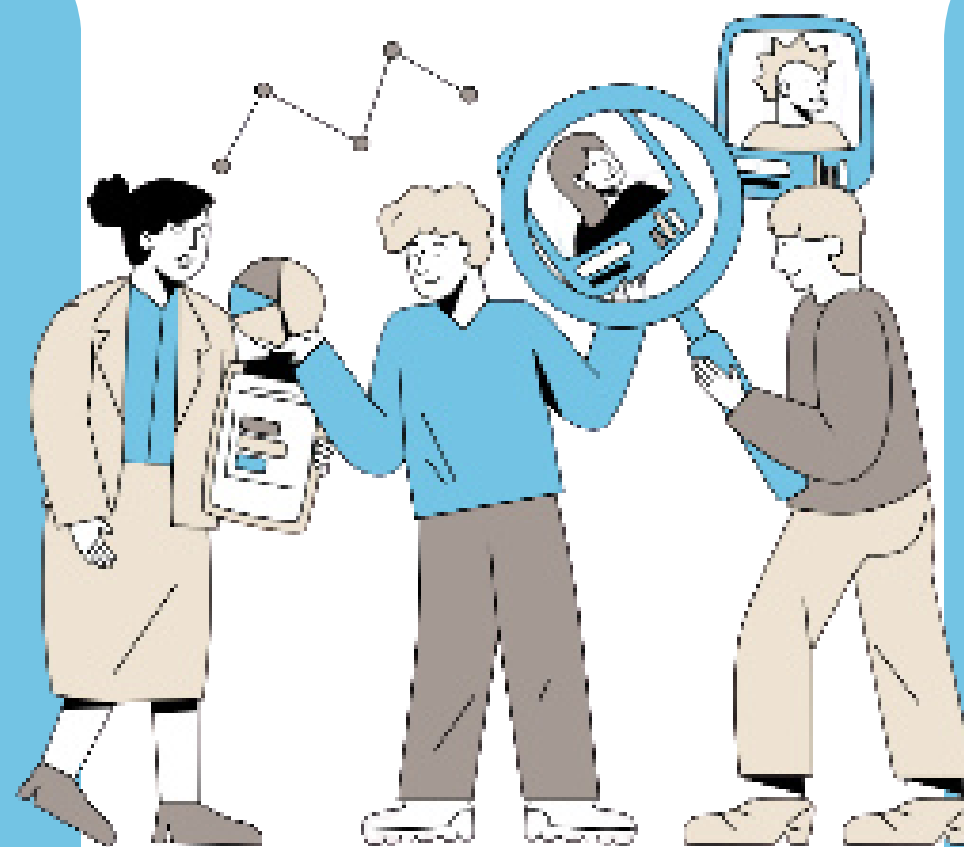
「志木の森学園」って何？

志木第二小学校
志木第四小学校
志木第二中学校

3つの学校が1つになった時の
学校の名前です。

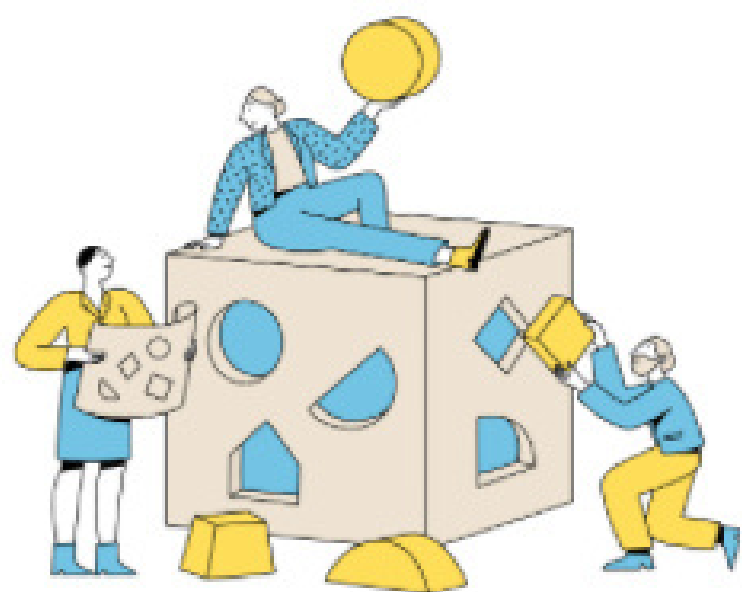
義務教育学校の先生たち

- ・ 小学校の先生も中学校の先生も同じ職員室
- ・ 小学校の先生も中学生へ
中学校の先生も小学生へ授業をすることができる



義務教育学校の学習

小学校と中学校の先生で、
小学校と中学校のつながりを
考えた授業を計画

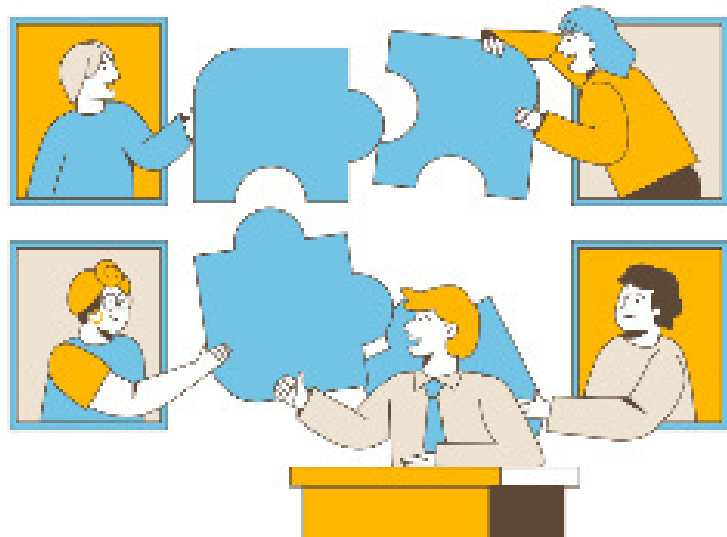


義務教育学校の校長先生やその地域の教育委員会の方から...

義務教育学校になってよかった

すでに義務教育学校を
開校している地域

- ・ 学力が高まった
- ・ 子供たちのよりよい変容が見られた
- ・ 新しい学校に子供はすぐ慣れた



児童生徒がともに創る学びも増えます
他の自治体の先進事例としては...

異学年で行う 縦割り清掃

下の学年に掃除の仕方を教えたり
上の学年を見習ったりする中で、
手本となろうとする気持ちや憧れに
つながります



児童生徒がともに創る学びも増えます
他の自治体の先進事例としては...

合同 防災教育

自分の身は自分で守ることや
特に中学生は、
自分の地域を守る支援者
という意識につながる





児童生徒がともに創る学びも増えます
他の自治体の先進事例としては...

小・中 子供合同企画

自分たちの学校をよりよくしていく
気持ちが育まれる
自分たちで創る主体性につながる



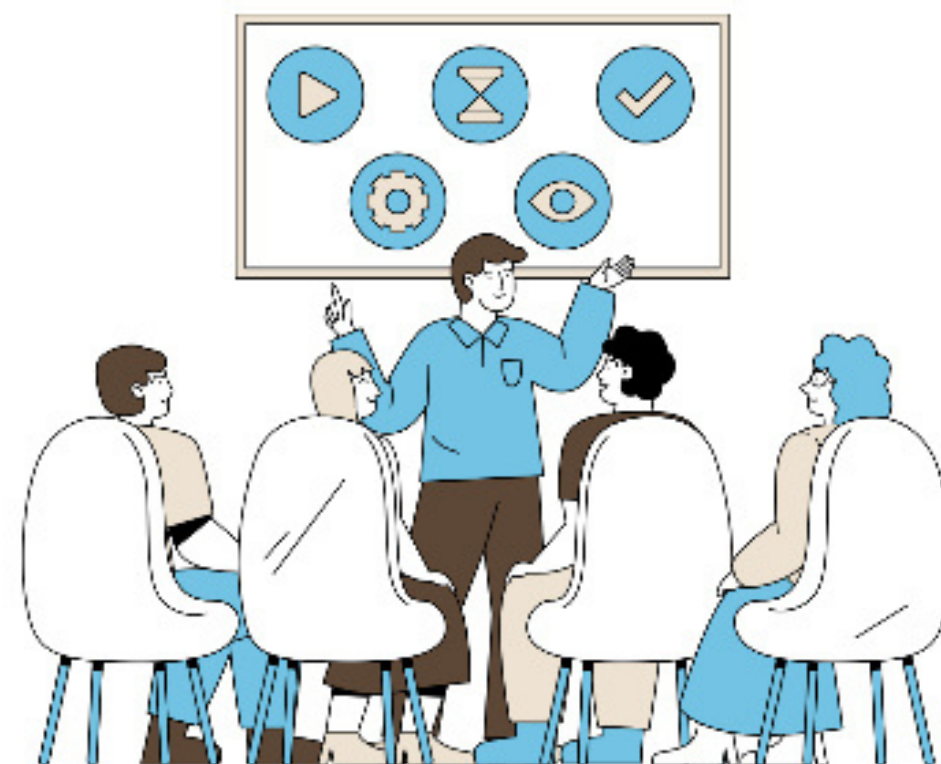
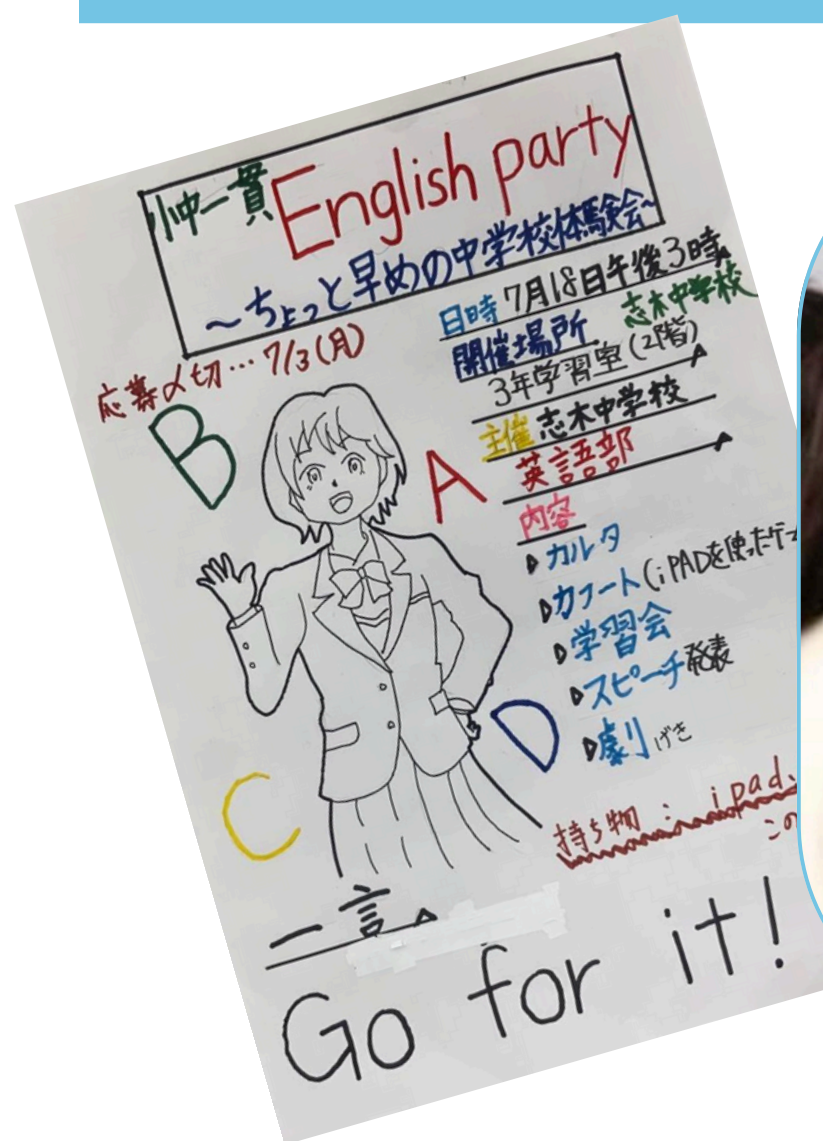
志木市での取組

中学生の合唱
中学生が小学校へ訪問して合唱を披露 🎵



志木市での取組

部活動体験会 小学生が中学校の部活動を体験



志木市での取組

あいさつ運動 中学生と小学生がお互いの学校へ行っあいさつ🎵



「志木の森学園」で何が変わるの？

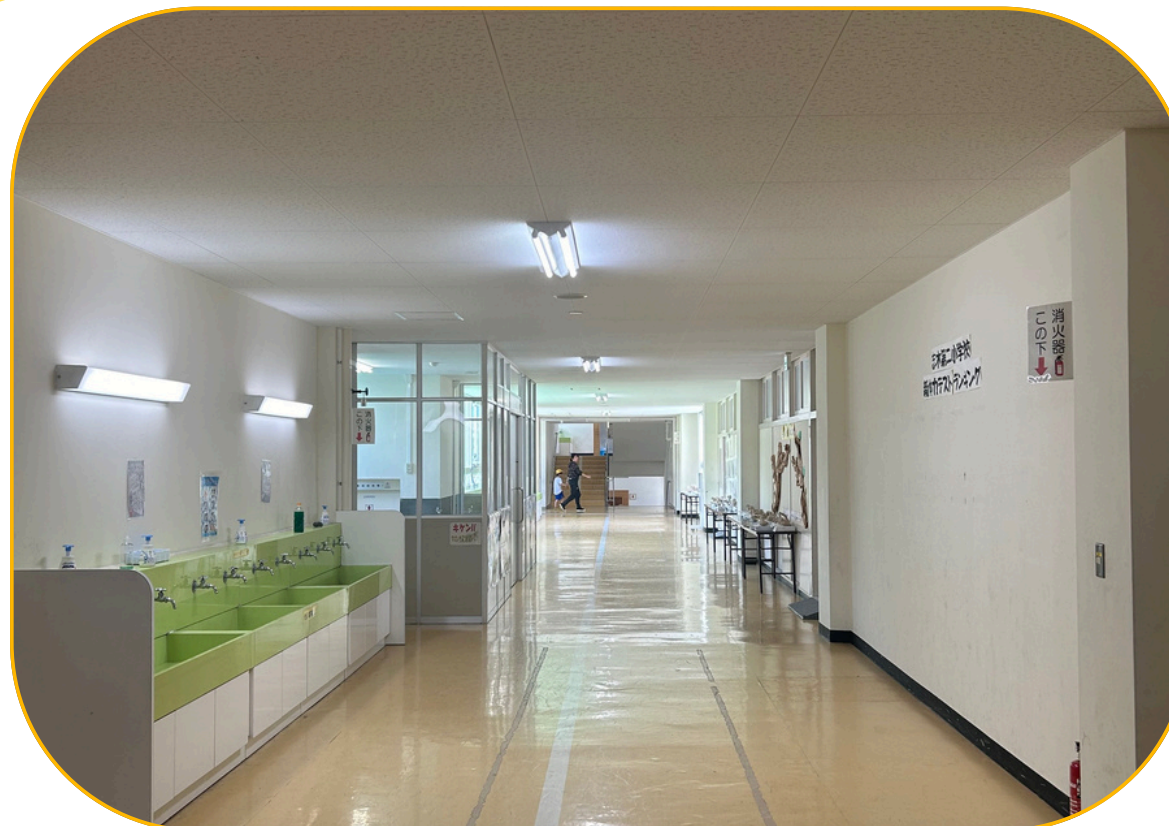
今の志木第二中学校

6年生から9年生までの普通教室
特別教室
特別支援学級
体育館
運動場

渡り廊下で
一体的な校舎になります。

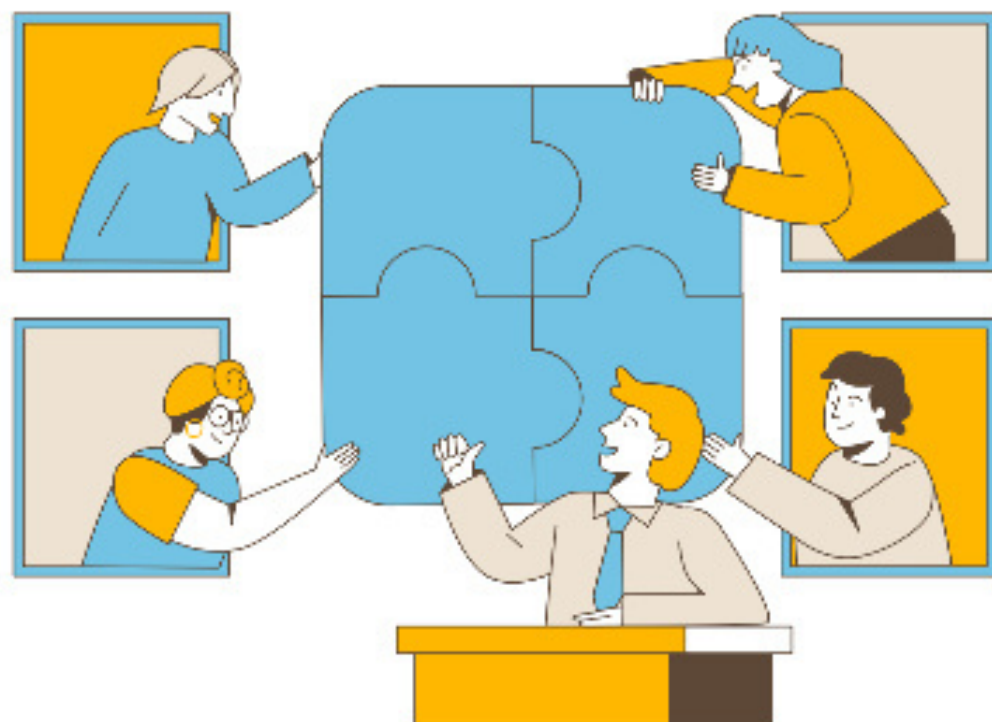
今の志木第二小学校

1年生から5年生までの普通教室
特別教室
特別支援学級
体育館
運動場



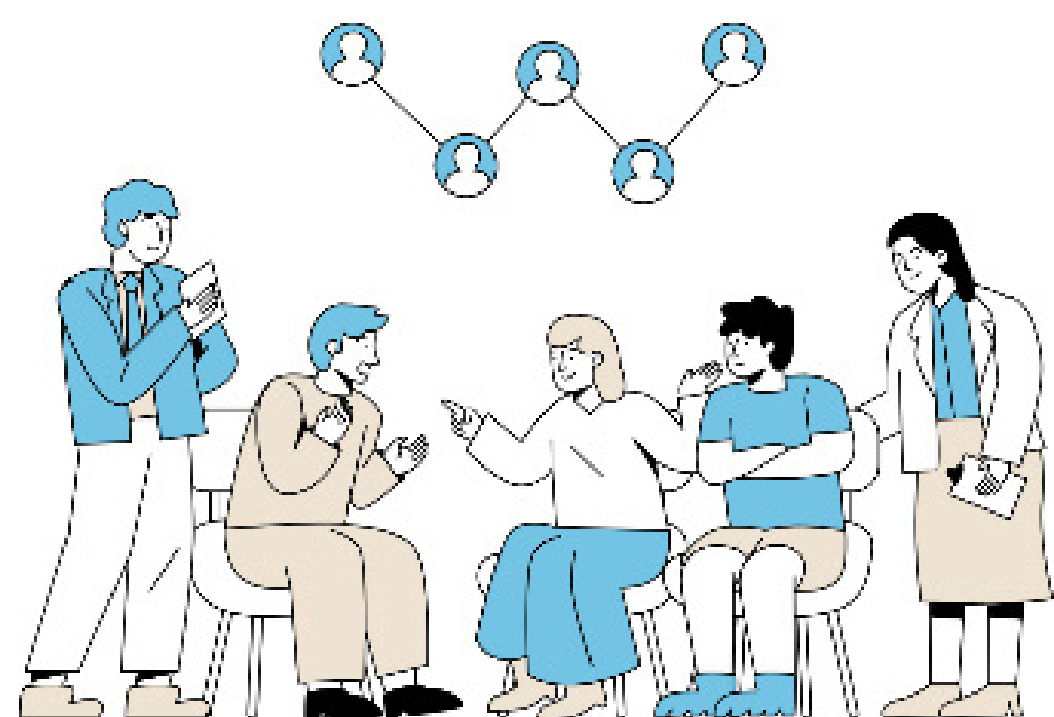
1つの学校になると 何が変わるの？

一体的な校舎での生活では



1年生から9年生の先生が
協力して授業をしたり
みんなのことを支えたりします。

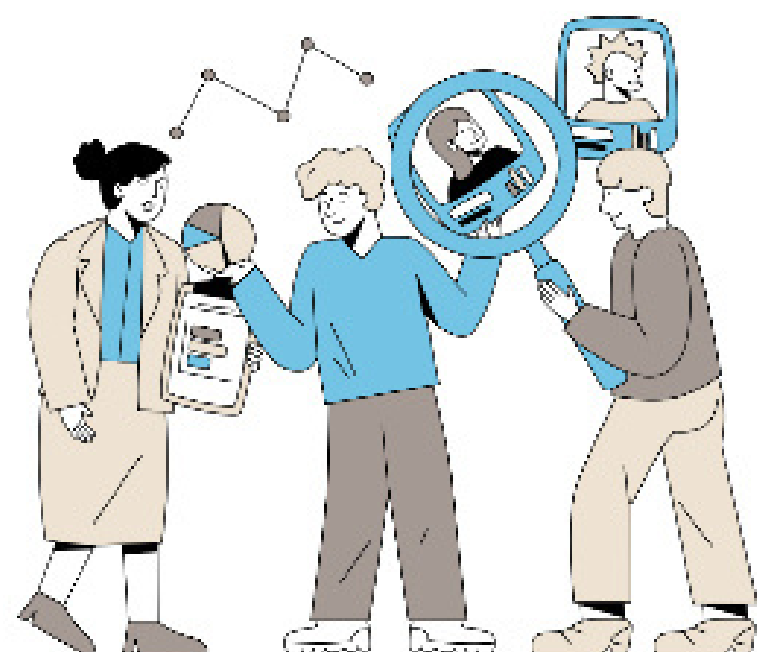
志木市での取組



中学校の先生が小学校で外国語の授業



志木市での取組



中学校特別支援学級の先生が 小学校特別支援学級の音楽の授業



「志木の森学園」で何が変わるの？

今の志木第四小学校の校舎

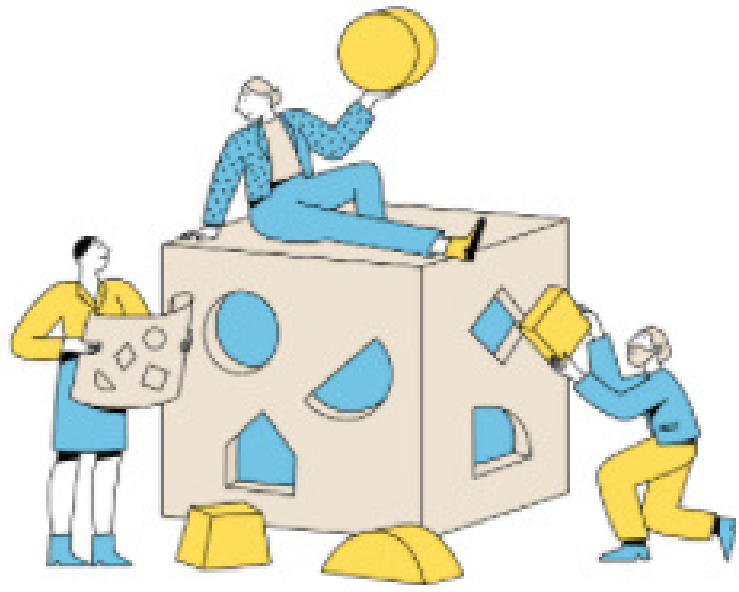


志木第四小学校の校舎でも！！

安心できるように

困ったことを相談できる所がある
といいなというアイデア

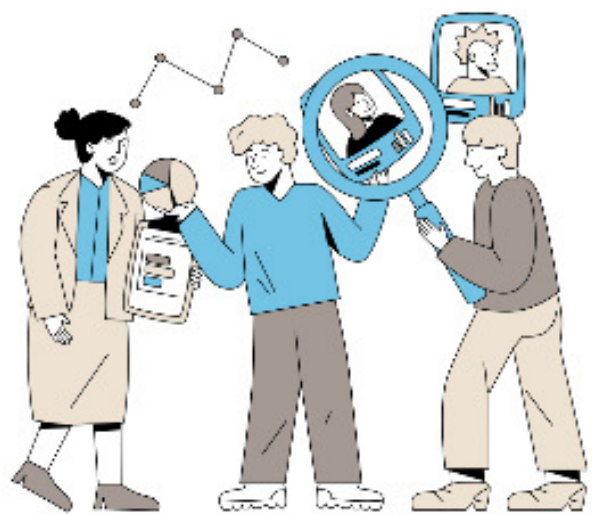




志木第四小学校の校舎でも！！

防災について
一緒に学べるように

地域とともに防災キャンプができ
るといいなというアイデア

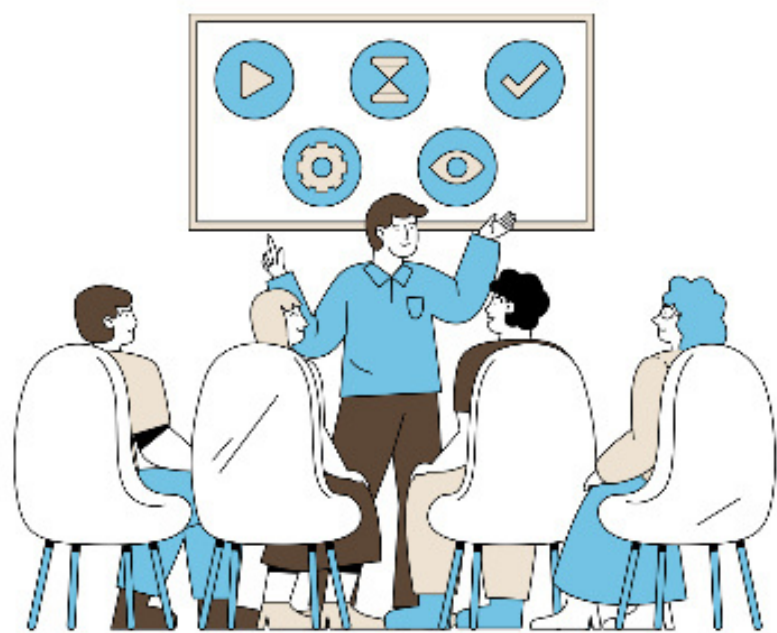


志木第四小学校の校舎でも！！

地域の人と
交流できるように

地域の人と世代を超えて交流でき
る場所になるといいなというアイ
デア





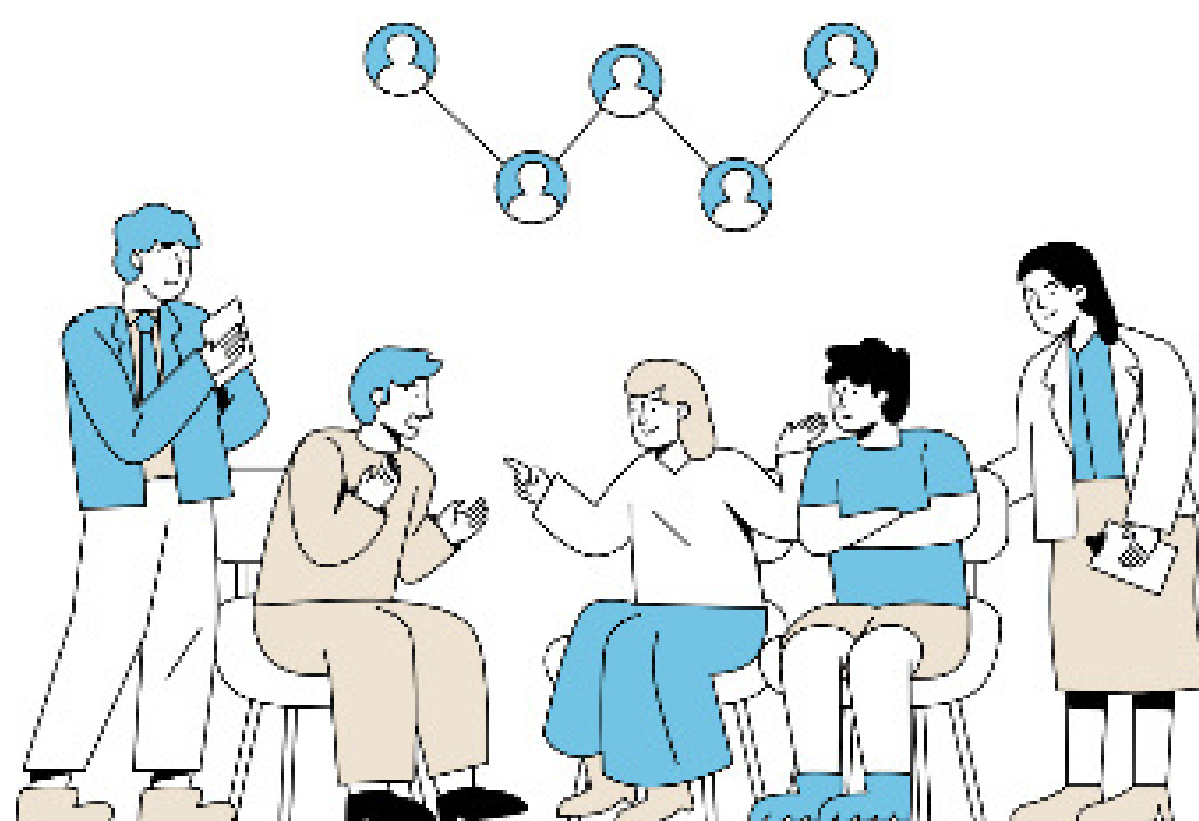
志木第四小学校の校舎でも！！

自分で学習を
進められるように

自由に学習できる自習スペースが
あるといいなというアイデア



どんな
「志木の森学園」にしたい？



志木の森学園スタートに向けて
いろいろなアイデアを！！

義務教育学校設置に向けての意識調査質問項目【保護者用】

基本事項

Q 現在、お子様が通学している学校を選択してください。

未就学児の場合は、入学予定の小学校を選択してください。（複数選択可）

【選択項目】 ・志木第二小学校 ・志木第四小学校 ・志木第二中学校

Q お子様の学年を選択してください。

未就学児の場合は年齢を選択してください。（複数選択可）

【選択項目】 ・小1 ・小2 ・小3 ・小4 ・小5 ・小6
・中1 ・中2 ・中3 ・0歳 ・1歳 ・2歳
・3歳 ・4歳 ・5歳 ・6歳

Q 保護者氏名及びメールアドレスを入力してください。（任意）

※メールアドレスを入力いただいた場合は、受付完了メールを送信いたします。

【選択項目】 ・保護者氏名 ・フリガナ ・メールアドレス

質問事項

Q リーフレットを見て、「小中一貫型小学校・中学校」と「義務教育学校」の違いについて理解することができましたか。（1つ）

【選択項目】 ・理解できた ・概ね理解できた
・あまり理解できない ・理解できない

Q 志木の森学園（義務教育学校）では、今まで別々の学校であった小・中学校の教職員が、新たにひとつの学校の教職員組織となって、1年生から9年生までの児童生徒を「自分の学校の子供たち」として、9年間の学びを支援していきます。

このことについてどう思いますか。（1つ）

【選択項目】 ・とてもよいと思う ・よいと思う
・あまりよいと思わない ・よいと思わない

【自由記述】 ・選択した理由があれば教えてください。（50字以内）

Q 志木の森学園（義務教育学校）では、志木第二小学校校舎と志木第二中学校校舎を渡り廊下でつなぐ予定です。このことにより、１年生から９年生が一体的な校舎で生活し、例えば、中学生と小学生が気軽に声をかけ合う機会が増えたり、運動場や図書室で一緒に学習したりします。

このことについてどう思いますか。（１つ）

- 【選択項目】
- | | |
|-------------|----------|
| ・とてもよいと思う | ・よいと思う |
| ・あまりよいと思わない | ・よいと思わない |

【自由記述】 ・選択した理由があれば教えてください。（５０字以内）

Q 志木の森学園（義務教育学校）では、小学校と中学校の先生がひとつの学校の先生となるため、全ての先生が自分の学校の子供として１年生から９年生までの相談に乗り、支援します。児童生徒からも小・中学校の先生の区別なく、９年間を通してたくさんの先生と話をしたり、関わりを持ったりすることができます。

このことについてどう思いますか。（１つ）

- 【選択項目】
- | | |
|-------------|----------|
| ・とてもよいと思う | ・よいと思う |
| ・あまりよいと思わない | ・よいと思わない |

【自由記述】 ・選択した理由があれば教えてください。（５０字以内）

Q 志木の森学園（義務教育学校）では、１年生から９年生がひとつの学校として、一体的な校舎で学校生活をするため、お互いがどのように生活しているのかを自然に知ることができます。例えば、小学生のうちから部活動の様子を身近で見たり、体験的に参加したりすることも可能となります。

このことについてどう思いますか。（１つ）

- 【選択項目】
- | | |
|-------------|----------|
| ・とてもよいと思う | ・よいと思う |
| ・あまりよいと思わない | ・よいと思わない |

【自由記述】 ・選択した理由があれば教えてください。（５０字以内）

Q 志木の森学園（義務教育学校）では、一体的な校舎となることで、例えば、小学校の算数の授業で、中学校の数学の先生が授業することにより、学習の段差をなだらかにすることができます。また、中学校の授業でこれまでの子供の学びの様子を知っている小学校の先生が、中学校の授業のサポートをすることで、つまずきを早めに把握し、対応することができます。

このことについてどう思いますか。（１つ）

- 【選択項目】
- | | |
|-------------|----------|
| ・とてもよいと思う | ・よいと思う |
| ・あまりよいと思わない | ・よいと思わない |

【自由記述】 ・選択した理由があれば教えてください。（５０字以内）

Q 志木の森学園（義務教育学校）では、異学年での合同授業を行うこともあります。例えば、総合的な学習の時間の中では、学年を超えた多くの仲間と一緒に話し合いや調べ学習をしたり、音楽の授業でお互いの合唱を聴き合ったりするなど、小学生と中学生が交流する学校生活の中でこれまで以上にたくさんの経験が得られます。

このことについてどう思いますか。（１つ）

- 【選択項目】
- ・とてもよいと思う
 - ・よいと思う
 - ・あまりよいと思わない
 - ・よいと思わない
- 【自由記述】
- ・選択した理由があれば教えてください。（５０字以内）

Q 志木第四小学校校舎では、どのような活用ができるとよいと思いますか。

- 【選択項目】
- ・部活動スペース
 - ・自習スペース
 - ・作品展示スペース
 - ・縦割り活動（異学年交流）スペース
 - ・学年集会（多目的）スペース
 - ・多世代交流スペース
 - ・教職員研修スペース
 - ・市民活動スペース
 - ・通級指導教室
 - ・適応指導教室
 - ・外国籍児童生徒の支援機能
 - ・子育て支援機能
 - ・防災施設
 - ・学校応援団活用施設
 - ・その他

Q 志木の森学園（義務教育学校）に関して、御意見などがありましたらご記入ください。

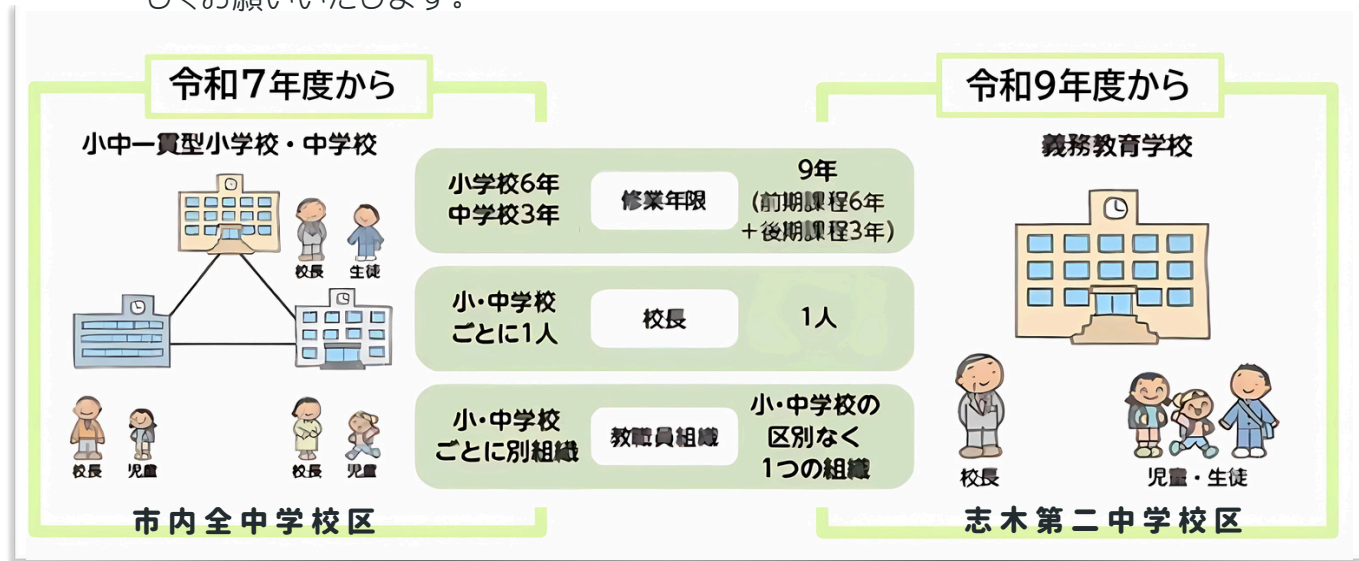
- 【自由記述】
- ・３００字以内

よりよい小中一貫教育に向けて意識調査に御協力ください

令和9年度からの「義務教育学校」の設置に向けて、小中一貫教育の効果をより高めるために、志木第二中学校区の児童生徒や保護者の皆様に意識調査を実施させていただきます。

なお、児童生徒へは、学校において実施します。

よりよい「志木の森学園」にするために、意識調査に御協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。



「志木市の目指す小中一貫教育」～義務教育全体の質の向上のために～

本市では、市全体で小中一貫教育の推進に取り組んでいます。小中一貫教育は、小学校と中学校の義務教育9年間の学びをつなげ、より効果的な学校教育としていくためのものです。

小中一貫教育の効果を発揮するための学校の設置形態として、令和7年度から、市内全ての小・中学校が「小中一貫型小学校・中学校」となります。志木第二中学校区では、これまでの取組や立地状況などを踏まえ、令和9年度から、さらに小中一貫教育の効果を高めるため「義務教育学校」とする予定です。

1つの教職員組織

義務教育学校では、1つの教職員組織となります。

小・中学校の教職員が1年生から9年生までの児童生徒を「自分の学校の子供たち」としてともに支援していきます。

人間性や社会性の育成

1年生から9年生までが、一体的な校舎で生活することになります。

小・中学校の垣根を越えた児童生徒の交流が活発化し、人間性や社会性が育まれます。

9年間がつながる学び

9年間の一貫した教育課程を編成します。

小・中学校の先生がともに編成することで、教職員間の情報交換がより密になり、9年間の見通しをもった指導になります。

例えば、

免許を所有する教科について、小・中学校の垣根を越えて指導できることで、教員一人一人の専門性を生かした発展的な指導ができます。

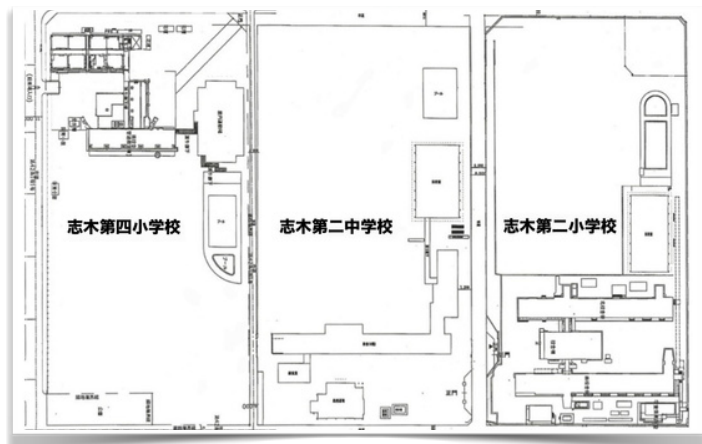
すでに開校している義務教育学校の校長先生から「お手本になったり憧れをもったりしながら子供たちが成長している」というお話を伺いました。

例えば、

学習でつまずきやすい部分を小・中学校の先生が確認合いながら授業を改善していくことで、小学校と中学校の学びがつながります。

義務教育学校「志木の森学園」

「志木の森学園」では、令和9年度から義務教育学校となり、校舎の活用方法が変わる予定です。
志木第二小学校と志木第二中学校を渡り廊下でつなぎ、一体的な校舎とします。



義務教育学校が始まる令和9年度では、

・1年生から5年生までの約670名は、
志木第二小学校の校舎

・6年生から9年生までの約620名は、
志木第二中学校の校舎

となる予定です。

(令和9年度児童生徒数見込みによる。)

志木第四小学校の校舎は、子供たちのための教育的な活用について検討しております。なお、校舎の解体や土地の売却は、考えておりません。

1 学習内容

国で定められている学習指導要領に基づくため、教科書や各学年の学習内容はこれまでと変わりません。

2 学級の定員

学級の定員は、法令で定められているため、小中一貫型小学校・中学校においても義務教育学校においても学級の定員は変わりません。

3 教職員数

小中一貫型小学校・中学校においても義務教育学校においても、これまでどおり、県の基準に基づき配置します。

さらに、追加で教職員等を配置できる制度を活用します。

4 卒業式・入学式

6年生の修了時には、卒業式に相当する行事を、7年生進級時についても、入学式に相当する行事を実施します。

5 教室の数

普通教室や特別教室、保健室、図書室など、必要な数を確保します。

さらに、全ての学年で、少人数指導等で活用できる教室も確保する予定です。

6 制服・体操服

在校生は、現在の制服、体操服を使用できるようにします。

新たな制服や体操服を検討する際も、児童生徒や保護者の皆様の御意見をいただきながら検討を進めます。

学年段階の区切り

文部科学省は、「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」の中で、以下の内容を示しています。

- ・6-3制の学校も成果を上げている一方で、6-3制以外の柔軟な学年段階の区切りを設定している学校の方が、より多くの成果を認識しているとの結果が出ている。
- ・6-3制の大きな枠組みを維持しつつ、目的や内容に応じて4-3-2や5-4などのように学年段階を超えた区切りを柔軟に設け、教育活動を充実させることができる。

(参考: 文部科学省「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」)

これらを受けて検討した結果、本市においては、各中学校区の実態が異なっていることを考慮し、各中学校区の目指す児童生徒像や実態に合わせ、学年段階の区切りを柔軟に設定することができるようになりました。

志木第二中学校区については、教職員や学校運営協議会が中心となって、「社会で胸を張って自己実現できる子を育てるために」という目標を設定し、検討を重ねた結果、4-3-2の学年段階の区切りを導入することとしました。



こちらは、小中一貫教育に関するリーフレットです。
タップ(読み込み)して御覧ください。